

目次

2022年～2023年秋 新刊のご案内	2
これから刊行する書籍のご案内	19
テキストのご案内	26
電子教科書について	33
雑誌「日本文学」発売中	34
製作協力した電子学術雑誌	34
新刊の紹介動画YouTubeで配信中	34
ウェブマガジン 未草のご案内	35
近刊テキストのご案内	36

未 発

2023 年 秋冬

ジュニア版

【ひつじ書房新刊・近刊案内】

未発ジュニア版 2023 秋冬
電子版 (PDF) はこちら→



房主より

コロナで閉じこもっていることが推奨されていた時期がひとまず終わりました。すっきりと解放されたということではなく、感染者が増えていることもあり、まだまだ、気をつけないといけないところもあります。受け止め方も多岐にわたっていると思いますが、海外の研究会に出かけて発表するという方も多くいらっしゃると思います。一つの区切りはついたといっただろうと思います。コロナの時は、隔離するということが推奨されていたので、結果として、企画を受けることも新しく提案することも消極的になっていたと思います。ここで、消極的な気持ちから脱することが重要でしょう。これまでをお願いしていて、中断されていた企画を復活させようと思い、この機会に打診しましたところ、再起動できそうなケースがありました。さらに新しい企画も生まれつつあり、編集会議でいろいろと考えているところです。コロナで停滞していた新しい企画も立てようとしています。

ある方に聞いたところでは、その方の研究会に参加したい、論集がでるのなら執筆したいという反応が、これまでより多いということでした。若手の発表の場が減っている中で機会があれば積極的に行動したいと思っている人が増えてきているということなのか。詳細はわかりませんが、論集に書きたいという要望があるのなら、出版できる機会を増やすようにするというのも、出版社の考えるべきことのように思います。研究会を主催するのは研究者の方であり、出版社は応援することが仕事です。若手の研究者を応援したいです。さらにそんな出版社を応援下さいますよう、よろしくお願いします。



X (Twitter) アカウントと YouTube チャンネルはこちら。
ぜひフォロー & チャンネル登録をお願いします！



X

@hituzi_gusa

https://twitter.com/hituzi_gusa/



YouTube

straysheep 2020

<https://www.youtube.com/@straysheep-h70s/>



ひつじ書房

〒112-0011

東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F

<https://www.hituzi.co.jp/>

e-mail toiawase@hituzi.co.jp

tel 03-5319-4916 fax 03-5319-4917



💡 印のついているものは、2023 年刊行の新刊です。

ひつじ研究叢書(言語編)

第 114 巻 **複合辞研究** その成り立ちと広がり

松木正恵著 A5 判・672 頁・978-4-89476-661-7 定価 9,200 円＋税 発行 2023.3 💡

第 I 部では複合辞に関する研究史について、20 世紀までの流れを記述。第 II 部は文法化の考え方を取り入れながら、複合辞と引用表現との関連性、思考動詞・視覚動詞との接点について論じた。第 III 部では、複合辞研究と複文構文の関係について取り上げた。第 IV 部では、体系的に複合辞を俯瞰した従来型の研究を紹介するとともに、最近のコーパスを資料とした網羅的・体系的な研究を取り上げたうえで、複合辞研究のこれからの方向性を模索した。

第 182 巻 **感動詞研究の展開**

友定賢治編 A5 判・352 頁・978-4-8234-1065-9 定価 6,800 円＋税 発行 2022.3

『感動詞の言語学』(ひつじ書房 2015)に次ぐ 2 冊目の感動詞論文集。感動詞化のメカニズムの対照研究、「おっと」「えーと」など「と」系感動詞の意味・用法、役割語における感動詞、日本語学習者の応答表現、など感動詞研究の広がりや深化を示す論文で構成されている。感動詞の魅力と研究の可能性が感じられる一冊。執筆者：井上優、金田純平、金水敏、小林隆、定延利之、富樫純一、友定賢治、中西太郎、林青樺、仁科陽江、野田尚史、森山卓郎、楊虹、羅希、劉仞霞、有元光彦

第 185 巻 **英語の補部の関係節の統語論・意味論と先行詞の問題**

渡辺良彦著 A5 判・516 頁・978-4-8234-1102-1 定価 10,000 円＋税 発行 2022.2

述詞関係節や副詞句を空所とするある種の関係節が、関係節の形をしながら修飾部とは異なる「補部」という意味機能を果たすのはなぜであろうか？ 本書は、可能な補部の関係節を限定するため関係節化を個体対象のものと述語対象のそれとの 2 つに分け、後者が補部の関係節を特徴づけるとする考えを生成文法の枠組みで論じた最初の試みである。本書では、命題関数でなく「命題」として解釈される関係節の存在が新たに提案される。

第 186 巻 **語彙論と文法論をつなぐ** 言語研究の広がりを見据えて

斎藤倫明・修徳健編

A5 判・360 頁・978-4-8234-1111-3 定価 8,000 円＋税 発行 2022.3

語彙論と文法論が密接に関わることは従来から言われてきたことだが、本論文集は、接辞や語はもちろん、連語や句といった語と文をつなぐ単位や、文章を構成する諸単位における語彙と文法との関連性(第 1 部)、文法化や対照研究の面(第 2 部)といったこれまであまり重点的に論じられなかった点から語彙論と文法論とのつながりを探ったものである。執筆者：庵功雄、石井正彦、甲田直美、斎藤倫明、佐藤健、修徳健、曾睿、東条佳奈、ナロック・ハイコ、林雅子、早津恵美子、宮地朝子、森山卓郎、呂妍

第 187 巻 **アラビア語チュニス方言の文法研究** 否定と非現実モダリティ

熊切拓著 A5 判・364 頁・978-4-8234-1112-0 定価 9,000 円＋税 発行 2022.2

アラビア語チュニス方言についての本邦初の文法研究書。否定辞 *ma* と接尾辞 *-j* で動詞などを挟むのは、アラビア語方言に広く見られる否定文の作り方だが、本研究はチュニス方言の否定文の実証的な分析を通じて、*ma* と *-j* の役割をはじめて解明。さらにチュニス方言独自の文法現象についても豊富に扱う。否定と非現実モダリティの関係、現実性の観点からの否定の類型、談話モダリティとしての否定など、他言語の研究にも応用可能な理論的考察も豊富。

〈日本学術振興会助成刊行物〉



第188巻 条件文の日中対照計量的研究

KH Coder と SPSS を利用した可視化分析

李光赫・趙海城著 A5判・202頁・978-4-8234-1113-7 定価 6,800 円＋税 発行 2022. 8

日中対照研究者必携！ 中日対訳コーパスを利用し、条件文の日中対照状況を可視化する方法を説明した最初の研究書。初心者でも理解できる中日対訳コーパスの構築と研究の方法を紹介。日中対照研究を量的に比較・可視化する新たな研究方法を提示。海外版の Windows でも使え、数学が苦手な文系の研究者でも統計処理が可能。三種類以上の言語と日本語の対照研究にも応用可で、海外の日本語学習者でも日本語教育者でも使える。



第190巻 書き言葉と話し言葉の格助詞 コーパスと辞書記述の観点から

丸山直子著 A5判・384頁・978-4-8234-1142-7 定価 6,800 円＋税 発行 2022. 6

現代日本語の格助詞について、複合格助詞も含めて、個々の助詞の性質や、助詞同士の関連について論じる。国語辞書における格助詞・格情報の記述法を検討し、コーパスをもとに、書き言葉・話し言葉の格助詞がどのように用いられているかの実態把握を行った。格の複数性(多重性・多側面性・連続性)と段階性(述語との結びつきの強さ)についても論じる。無助詞の現象やうなぎ文・こんにやく文についても触れている。



第191巻 語用論的方言学の方法

小林隆著 A5判・592頁・978-4-8234-1150-2 定価 8,800 円＋税 発行 2023. 2

近年、語用論の発展はめざましいものの、歴史語用論や社会語用論に比べ、日本語の地理的側面についての語用論は遅れている。本書はそうした状況を踏まえ、方言学の世界に語用論的な見方を導入し、新たな方言学を切り拓こうとするものである。対象は言語行動、談話に留まらず、オノマトペや感動詞の運用、文法論との接点に及ぶ。また、それらの現象を背後から操る「言語的発想法」の地域差をあぶり出そうとすることに特色がある。〈日本学術振興会助成刊行物〉



第192巻 話し言葉における受身表現の日中対照研究

陳冬妹著 A5判・248頁・978-4-8234-1151-9 定価 6,400 円＋税 発行 2023. 1

日本語の受身文と中国語の“被”構文に関して、統語的・意味的観点から多くの知見が蓄積されているが、ほとんどは書き言葉を中心とするものであった。本書では、これまで重点的に論じられてこなかった話し言葉における日中受身表現の使用傾向に注目し、その非対称性、述語動詞の類型分布、主語の選択傾向、使用頻度の差などを調査・比較し、意味的機能・談話的機能のどちらをより重視するかという点を軸に、日中受身表現の使用の共通点・相違点の全体像を示した。



第193巻 現代日本語における意図性副詞の意味研究 認知意味論の観点から

李澤熊著 A5判・348頁・978-4-8234-1171-7 定価 7,000 円＋税 発行 2023. 1

現代日本語の副詞に関する諸研究を整理・検討し、認知言語学の観点を視野に入れ、意図性に関わる副詞的成分 22 語の副詞における位置付けを提案する。また、従来の優れた意味分析の手法に加え、認知意味論の主要概念を援用し、22 語のそれぞれの意味と相互の意味の類似点・相違点を明らかにすることによって、日本語の意味研究に新たな端緒を与えるとともに、他の品詞に比べて遅れをとっている副詞研究のさらなる発展・深化を目指す。〈日本学術振興会助成刊行物〉



第194巻 副詞から見た日本語文法史

川瀬卓著 A5判・256頁・978-4-8234-1174-8 定価 7,200 円＋税 発行 2023. 2

本書は、アスペクト、否定、モダリティ、行為指示や感謝・謝罪における対人配慮などの、日本語の文法現象と関わる副詞をいくつか取り上げ、副詞を視点として日本語文法史に迫ることを試みたものである。個々の副詞の歴史変化を記述するとともに、それを通して、副詞に見られる文法変化のありようを示し、日本語の歴史の時代的動向についても論じる。語史研究の先にある、副詞の歴史的研究の新たな可能性を実践的に示した書。〈日本学術振興会助成刊行物〉



第195巻 獲得と臨床の音韻論

上田功著 A5判・168頁・978-4-8234-1177-9 定価5,000円＋税 発行2023.2 

幼児の言語発達期に見られる発音の遅れや誤り、機能性構音障害と呼ばれる体系的な誤構音につき音韻理論からのアプローチを試みる書。伝統的古典の生成音韻論から、自然音韻論、素性階層理論、素性不完全指定理論、近年の最適性理論に至る理論の発展に伴い、幼児の誤構音にどのような光が当てられてきたかを、日本語と英語の誤構音のデータを分析の俎上に上げて議論を進める。臨床現場の活動と理論的な分析は車の両輪である。分野横断的で学際的な書である。
〈日本学術振興会助成刊行物〉



第196巻 日本語と近隣言語における文法化

ナロック ハイコ・青木博史編

A5判・336頁・978-4-8234-1169-4 定価6,800円＋税 発行2023.8 

本書は、日本語及び近隣言語に焦点を当て、これらの言語における文法化の特徴の解明に取り組んだものである。日本語では、漢文訓読からの文法化や、接統詞の文法化、係り結びと文法化、さらに理論面では文法化と(間)主観化類推など、多様な側面から文法化現象が取り上げられ、近隣言語では琉球語と中国語が日本語にはない文法化の様相を見せており、今後の研究の土台となる。執筆者：青木博史、北崎勇帆、小柳智一、ジスク マッシュー、柴崎礼士郎、下地理則、高橋圭子、ナロック ハイコ、東泉裕子、宮地朝子、李佳樑



第197巻 プラグマティズム言語学序説 意味の構築とその発生

山中司・神原一帆著

A5判・260頁・978-4-8234-1184-7 定価4,000円＋税 発行2023.2 

現代的な意味論や語用論といった分野は分析哲学から派生したため、言語学と哲学は密接な関係にある。本書は言語学において議論されることが少ないプラグマティズムという哲学の概念が言語分析の基礎概念として機能することを示すと共に、その帰結を論じることを試みる。本書はプラグマティズムに加え、身体性、フレーム理論、ネオ・サイバネティクスといった概念との関係について詳細に論じる初の学際的な研究書でもある。



第200巻 方言のレトリック

半沢幹一著 A5判・320頁・978-4-8234-1204-2 定価7,000円＋税 発行2023.10 

従来、もっぱら文章とりわけ文学的文章に対して行われてきたレトリックに関する研究が、近年は語用論的な研究の進展にともない、談話一般さらには方言にも及ぶようになってきつつある。本書はそのような流れに倣して、日本各地の方言における、とくに比喩やオノマトペの実態を明らかにし、さらに、これまでは対象外にされてきたといえる、手話語や書という、位相を異にする分野のレトリックの如何にも言及を試みたものである。



Hituzi Linguistics in English

No.35 English Prepositions in Usage Contexts

A Proposal for a Construction-Based Semantics

堀内ふみ野著 菊判・224頁・978-4-8234-1110-6 定価9,400円＋税 発行2022.2

語の意味とは何か。構文的なパターンは言語使用の中からどのように形成されるのか。これらの問いに迫るため、本書では、英語前置詞の振る舞いを大規模コーパスや親子会話のデータを用いて分析し、前置詞を含む構文的なパターンが使用文脈の中で創発・定着するプロセスを、認知、談話、相互行為の観点から解明する。分析の帰結として、意味を担う基本単位は単一の語より大きな構文的単位であるという「構文の意味論」を提唱する。〈日本学術振興会助成刊行物〉

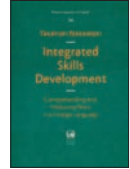


No.36 Integrated Skills Development

Comprehending and Producing Texts in a Foreign Language

中森誉之著 菊判・256頁・978-4-8234-1205-9 定価11,000円＋税 発行2023.10 

本書の目的は、英語教育の新理論を提案することにある。統合型の外国語教育を効果的かつ効率的に展開していくにあたり、その理論的基盤となる、文章の理解と作成のメカニズムを解明する。現在、マルチモーダルとしての電子機器使用が一般化している。多感覚器処理に関する認知科学の研究成果に基づき、聴覚・視覚情報処理及び思考過程に焦点を当てながら、単語、句、文を超えた、文章レベルの理解と創作の関係性を探究していく。〈日本学術振興会助成刊行物〉



コーパスによる日本語史研究【全3巻(予定)】

コーパスによる日本語史研究 中古・中世編

青木博史・岡崎友子・小木曽智信編

A5判・340頁・978-4-8234-1133-5 定価4,000円＋税 発行2022.10

日本語史研究は、資料の読解とそこから取り出した言語形式の集計と分析を重ねる方法によって、発展してきた。本書は中古語・中世語を対象とし、コーパスの構築や活用を通して実践した成果を集成するものである。中古・中世は従来から歴史的研究の中心であったと言えるが、コーパスを用いた方法論を取り入れることによって、新たな領域を切り拓く。執筆者：岡崎友子、近藤泰弘、吉田永弘、大木一夫、青木博史、北崎勇帆、池上尚、渡辺由貴、片山久留美、小木曽智信、松崎安子、鴻野知曉、市村太郎



シリーズ予定

コーパスによる日本語史研究 近世編 岡部嘉幸・橋本行洋・小木曽智信編 p.23

シリーズ 言語・コミュニケーション研究の地平【全3巻】(伝康晴・前川喜久雄・坂井田瑠衣監修)

外界と対峙する

牧野遼作・砂川千穂・徳永弘子編

A5判・256頁・978-4-8234-1127-4 定価3,200円＋税 発行2022.6

LC (Language and Communication) 研究会による研究成果をまとめたシリーズ。“外界”とは単に屋外のことを指すわけではない。本巻では“外界”をコミュニケーションに参加していない人々やモノと捉え、文化人類学、ロボット工学、会話分析、語用論などの幅広い分野からのアプローチによる研究を収録。執筆者：川口一画、黒嶋智美、清水大地、須永将史、砂川千穂、徳永弘子、名塩征史、蓮見絵里、平本毅、牧野遼作



シリーズ予定

自己と対峙する 吉川正人・佐治伸郎・土屋智行編 p.21

他者と対峙する 有本泰子・坂井田瑠衣・岡田将吾編 p.21

ちょっとまじめに英語を学ぶシリーズ(赤野一郎・内田聖二監修)

4 カタカナ語からはじめる英語の発音

中西のりこ著 四六判・168頁・978-4-89476-991-5 定価1,600円＋税 発行2022.2

日本語母語話者が英語発音を学ぶ際、カタカナ外来語の発音との混同が起こりやすい。しかし日本語発音と英語発音のしくみの違いを体系的に理解できれば、発音を学ぶことは難しくない。本書では、日常語として馴染みのあるカタカナ語を例に、敬遠されがちな発音記号を分かりやすく説明する。さらに音声変化やプロソディのしくみについても解説し、発音練習におすすめの学習法を紹介する。身近にあるカタカナ語の知識を活かして、発音の苦手意識を克服してほしい。

★音源はネットで提供。



5 英語談話標識の姿

廣瀬浩三・松尾文子・西川眞由美著

四六判・208頁・978-4-8234-1153-3 定価 1,600円＋税 発行 2022. 11

コミュニケーションは、話し手の発話意図を巧みに伝え、聞き手が誤解することなく理解できれば成功したと言える。その成功の鍵を握るのが談話標識である。本書では、英語談話標識について、個々の用法を詳細に述べると同時に、英語談話標識の全体像を明らかにしている。談話標識の理解を深めることで、ネイティブスピーカーの「心」が見える。



ひつじ研究叢書(文学編)

15 村上春樹 〈物語〉の行方 サバルタン・イグザイル・トラウマ

山根由美恵著 A5判・426頁・978-4-8234-1123-6 定価 6,800円＋税 発行 2022. 5

本書は、村上春樹が日本を離れ「イグザイル」(故郷離脱)を開始した時期から最新作までの村上文学の全体像および、変遷を捉えることを目的としている。現在村上には「世界文学」作家と評されることも多いが、自らを故郷離脱者と捉え模索した時期がある。この「イグザイル」意識からテキストを逆照射し、村上文学の新たな側面を提示した。また、本書では村上文学における「サバルタン」(下層・従属的・副次的存在)に着目し、村上文学の持つ批評性(とその限界)を捉えていることも特徴である。



未発選書

30 「大東亜」の読書編成 思想戦と日本語書物の流通

和田敦彦著 四六判・360頁・978-4-8234-1129-8 定価 2,900円＋税 発行 2022. 2

本書は、戦時期に日本の言語や文化の価値を教え、紹介し、広げていった人々の活動やその仕組みに焦点をあてる。知や情報を広げ、読者に働きかけていく仕組みを、国内の文化統制と、外地や占領地に向けた文化工作とに通底する技術として明らかにする。そのために、書物の読者への広がりをとらえる新たな研究方法を用いた。思想戦の政策から実践への展開が、占領地や移民地に遺る日本語蔵書の詳細なデータから初めて明らかにされる。



21 世紀日本文学ガイドブック

3 平家物語

高木信編 本橋裕美編集協力

A5変形判・248頁・978-4-89476-510-8 定価 2,200円＋税 発行 2023. 2

『平家物語』を理論的に読むとはどういうことなのか。従来の作者論、成立論、成立圏、諸本論の整理からの入門書とはちがう角度から、『平家物語』に迫ってみよう。「ジェンダー」「怨霊と鎮魂」「権力」「武士と死」「権力」などの物語を構築する諸モチーフから、『平家物語』の世界に分け入っていきたい。と同時に、ゼミでの発表の仕方、卒論の発想の仕方・書き方など、物語へのアプローチの基本的な方法も提示してみる。



AI 時代に言語学の存在の意味はあるのか？

認知文法の思考法

町田章著 A5判・176頁・978-4-8234-1207-3 定価 2,200円＋税 発行 2023. 9

近年の AI の発達により、言語学も変革を迫られている。これまで不可能だったことが AI によって着実に実現されていく。言語学の課題は AI によってすべて解決されてしまうのだろうか。本書は、長年ラネカーの認知文法理論の研究を行ってきた著者が、言語理論を継ぎながらディープラーニング以降の理論言語学および語学教育の在り方について提言を行う。AI 研究と言語研究の共進化を目指して。ウェブマガジン〈未草〉での連載に大幅な加筆修正をして書籍化。



データを用いたことばとコミュニケーション研究の手法

大津隆広編 A5判・264頁・978-4-8234-1043-7 定価6,000円＋税 発行2023.10

言語コーパスや音声・映像などの多様な言語・非言語データをベースに、言葉やコミュニケーションに関わる言語の諸相を分析した研究書。テンスやモダリティ、構文分析、談話標識やフィラー、会話パフォーマンスや日本語母語話者と非母語話者の相互行為能力、文法化や言語接触など、言語・非言語データをもとにした言語研究のアプローチ方法を示す。執筆者：内田諭、大津隆広、大橋浩、土屋智行、冬野美晴、松村瑞子、山下友子、山田明子、山村ひろみ、横森大輔、劉巖、Edmundo Cruz Luna

NOW
PRINTING

類型論から見た「語」の本質

沈力編 A5判・360頁・978-4-8234-1191-5 定価6,800円＋税 発行2023.10

これまで、言語研究において西洋言語研究の前提として扱われてきた語というものがある。しかし、当然と見なされてきた「語」というものについて、アジアの言語も視野に入れて類型論の視点から問い直す。数年間開催した研究会を踏まえて「語」の本質を再検討し、語を問い直し、言語学自体を問い直すことにもなり、あらたな議論を呼び起こす。執筆者：秋田喜美、窪蘭晴夫、定延利之、下地理則、沈力、堀博文、星英仁、山越康裕、由本陽子、渡辺己

NOW
PRINTING

自閉スペクトラム症と言語

幕内充編 A5判・176頁・978-4-8234-1157-1 定価2,000円＋税 発行2023.10

自閉症児が終助詞「ね」を全く使わないという、衝撃的な綿巻徹の1997年の報告にinspireされた言語学と医学領域の研究者が協同して自閉スペクトラム障害における終助詞使用の研究に取り掛かった。カートグラフィーの創始者であるリッツィが理論を解説（日本語訳 遠藤）、その理論を遠藤が日本語終助詞に応用する。執筆者：木山幸子、和田誠、遠藤喜雄、Luigi Rizzi、幕内充、他

イン／ポライトネス からまる善意と悪意

滝浦真人・椎名美智編

A5判・272頁・978-4-8234-1159-5 定価3,400円＋税 発行2023.4

ポライトな言葉は予定的に調和するが、インポライトなそれは隠微に絡み合う。21世紀以降、インポライトネスが言語研究者らを惹きつけているが、建前と本音を分ける日本では、未だ数えるほどしか研究がない。待たれていた初のインポライトネス論集として、漱石作品やママ友のバトルを解剖し、悪態・毒舌・ディスりを剔抉、善意が悪意に転じる契機を捉える。執筆者：阿部公彦、大塚生子、佐藤亜美、椎名美智、滝浦真人、福島佐江子、柳田亮吾

直喩とは何か 理論検証と実例分析

半沢幹一編 A5判・312頁・978-4-8234-1190-8 定価3,500円＋税 発行2023.5

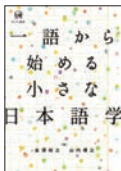
本書は、あたかもレトリックの代表のようにしばしば取り上げられながらも、あくまでも隠喩の添え物のような扱いしかされてこなかった直喩について、あらためてその正当な位置付けをするために、従来の直喩論に関する批判的な検討と、直喩とみなしうる日本語の表現例に関する詳細な分析とをとおして、その独自の特徴を明らかにしようとする試みである。執筆者：稲益佐知子、菊地礼、長沼英二、半沢幹一、松浦光、三田寛真

一語から始める小さな日本語学

金澤裕之・山内博之編

A5判・272頁・978-4-8234-1148-9 定価2,600円＋税 発行2022.8

「わーい」はいかにも話し言葉だが、実際に「わーい」と発話することはほとんどない。それはなぜなのか……。本書には、このような問題意識から出発し、一語にこだわった分析を行う17本の論文が収録されている。ネタ・素材に触れた時の発想・着想がとても重要で、一方、論証は最小限でよい。これが、本書の提案する「小さな日本語学」である。執筆者：岩田一成、奥野由紀子、加藤恵梨、金澤裕之、小口悠紀子、小西円、嶋ちはる、建石始、田中祐輔、中石ゆうこ、中俣尚己、橋本直幸、本多由美子、茂木俊伸、森篤嗣、柳田直美、山内博之



語りと主観性 物語における話法と構造を考える

阿部宏編 A5判・400頁・978-4-8234-1105-2 定価 7,800 円＋税 発行 2022. 2

本書は、日本語や英語・フランス語・ドイツ語における語りの問題、特に自由間接話法をはじめとする主観性関連の諸現象への複合的なアプローチの試みである。15 篇の論文それぞれの関心は相互に重なり合うが、第 1 章では言語学の問題、第 2 章では文学論・物語論、第 3 章では言語以外の表現形態との接点について主として考察している。執筆者：赤羽研三、阿部宏、石田雄樹、出原健一、川島浩一郎、小林亜希、嶋崎啓、鈴木康志、田原いずみ、平塚徹、深井陽介、牧彩花、松澤和宏、三瓶裕文、吉川一義〈日本学術振興会助成刊行物〉

シリーズ ドイツ語が拓く地平 3

ノモスとしての言語

大宮勘一郎・田中慎編 A5判・344頁・978-4-8234-1106-9 定価 4,400 円＋税 発行 2022. 5

ドイツ語という言語を切り口に、社会、歴史、文化の問題を論じるシリーズ第 3 巻。第 1 部「近代ドイツにおける『国語』」では、言語の規範（ノモス）の形成と変容の社会的、物質的条件についてドイツ語を例に歴史的観点から考察する。第 2 部「現代におけるノモスの揺らぎ」では、現代の言語規範のありかたについて地理的、社会的、文体的な観点から検討する。執筆者：井出万秀、遠藤浩介、大宮勘一郎、小川敦、川島隆、清野智昭、杉田優子、高田博行、高橋秀彰、武田利勝、田中慎、宮田真治

〈限界〉志向のロシア語と〈安定〉志向の日本語

アスペクト表現のロシア語・日本語対照研究

金子百合子著 A5判・400頁・978-4-8234-1117-5 定価 7,800 円＋税 発行 2022. 2

アスペクトは動作のどの部分を言語上で切り取るかを問うカテゴリーだが、それも言語的世界像の一部をなす。動作の展開において〈限界〉志向のロシア語と〈安定〉志向の日本語では、同じ意味でも「重み」や「振る舞い」が異なる。アスペクトの志向の違いはさらにテンスやモダリティ、語形成や構文における表現上の差異となって現れる。アスペクト意味の理論と実践の実態を多様な言表事実を基に検証する本邦初の本格的な露日対照言語研究。
〈日本学術振興会助成刊行物〉

ソシュールのアナグラム予想 その「正しさ」が立証されるまで

山中桂一著 A5判・152頁・978-4-8234-1092-5 定価 2,600 円＋税 発行 2022. 4

古典語の詩には、表現に並行して神格や作者名、テーマなどの音像を形成するような未知の詩法が存在したのではないか——この直感はソシュールを夢中にさせたが、結局その確証を得るに至らず、また後世の研究者たちも目ぼしい成果を挙げられなかった。しかし最近ようやくアナグラムの存在とその仕組みに関する有望な学説が登場した。本書ではそこに至る紆余曲折を略述し、最終解と思しいこの新説を紹介する。

ゼロ

0 から学べる島むに読本 琉球沖永良部島のことば

横山晶子著 B5判・160頁・978-4-8234-1158-8 定価 2,800 円＋税 発行 2022. 7

国内の危機言語である、奄美群島沖永良部島の言葉（しまむに）を、体系的に学べる読本である。文法記述研究を元に、音の体系、単語の作り方、文の作り方まで幅広くカバーし、実際の会話で使う文例や、はじめに学ぶべき 100 語も付録されている。豊富なイラストと平易な文章で、小学校高学年から大人まで、楽しみながら学ぶことができる。他地域の方言教本を作る上でも参考になる一冊である。

小説の描写と技巧 言葉への認知的アプローチ

山梨正明著 四六判・250頁・978-4-8234-1183-0 定価 3,400 円＋税 発行 2023. 5

一般に、小説に代表される散文芸術を特徴づける言語表現には様々な描写の技巧が関わっている。本書は、認知言語学の視点から、特に小説を特徴づける描写の主観性と客観性の側面に焦点をおきながら、文学テキストの創造性に関わる修辞技巧の問題を考察していく。小説の表現技巧の研究に貢献するとともに、叙述と描写に関わる文体論の基礎研究として重要な知見を提供する。また、小説の作品論と作家論の研究にも新たな視点を提示する。



認知言語学論考 No.16

山梨正明編 A5判・330頁・978-4-8234-1131-1 定価9,800円＋税 発行2022.8

目次：井上拓也 認知言語学を生態学的言語論として語り直す／五十嵐啓太 私的・公的表現の区別から見た絵本の表現技法／夏海燕 「てくる」構文に見られる〈不快感〉について／栗田奈美 本動詞から複合語構成要素、接辞への連続性／Ash L. Spreadbury *X they said Y they said* as a Sarcastic Multi-sentential Construction／中村涉 格の単義的分析とその帰結／濱田英人 日英語の語の意味拡張のメカニズムの違い／濱本秀樹 Instruction of English Counterfactuals Based on Embodied Cognitive Experience／松中完二 多義の原理についての認知意味論的考察



認知言語学論考 No.17

山梨正明編 A5判・978-4-8234-1203-5 定価9,800円＋税 発行2023.11

目次：井上拓也 生態学的意味論の構築／高橋英光 英語の行為指示文と談話構造／榎本幹人・上原聡 日本語時空間メタファーの包括的研究／松浦光 事象構造メタファーにおける「流れ」と評価性／小松原哲太 比喩の構文としての直喩／田中悠介 事態把握の選好性に対する理論的および認知科学的検討／木原恵美子 英語学習者による会話へのグッドイナフ・アプローチ／小林隆 I don't know の意味の広がりを見つめる認知文法でとらえる／伊藤薫・土屋智行 make NP 構文における冠詞の選好と形容詞を含む構文の融合が与える影響／安原和也 ことば遊び現象とプロファイリング／金杉高雄 理論言語学史

NOW
PRINTING

日本における言語社会化ハンドブック

クック岸岸治子・高田明編

A5判・354頁・978-4-8234-1049-9 定価3,000円＋税 発行2023.10

人類学、言語学、心理学、社会学などが交叉する領域で近年発展し、注目されている「言語社会化」アプローチの古典と最新の研究をまとめて紹介する本邦初の書籍。言語社会化の研究は、文化的新参者が「文化の文脈」と関連させつつ「状況の文脈」をどのようにとらえるのか、またそうしたとらえ方を文化的熟練者がどのように示唆するのかを明らかにする。これにより、「言語を使うための社会化」と「言語を使うことを通した社会化」を結びつけながら追究する。



ポエティクスの新展開 ブルリモダな実践の詩的解釈に向けて

片岡邦好・武黒麻紀子・榎本剛士編

A5判・312頁・978-4-8234-1144-1 定価4,800円＋税 発行2022.11

多様な記号の反復・対照性・平行性によってもたらされる等価性、すなわち「詩」の原理は、様々なコミュニティ内で指向される「行為の型」を司る原理でもある。伝統儀礼、芸能から、教育、福祉、実業、観光、社会運動まで、我々が実際に身を置く社会に存在する実践を「生活の詩」と捉え直し、社会的行為の根底にある詩的機能の作用を解き明かす。執筆者：浅井優一、井出里咲子、榎本剛士、梶丸岳、片岡邦好、高梨博子、武黒麻紀子、古川敏明、山口征孝

シリーズ 文化と言語使用 3

場と言語・コミュニケーション

岡智之・井出祥子・大塚正之・櫻井千佳子編

A5判・288頁・978-4-89476-793-5 定価3,600円＋税 発行2022.1

『場とことばの諸相』に続く、「シリーズ 文化と言語使用」の第3巻。近代哲学・科学のパラダイムを乗り越え、場の理論に基づく「主客非分離」「場における相互作用」のパラダイム転換を打ち出した渾身の一冊。人称詞、指示詞、絵本の日英対照、複合動詞、身体論など、豊富な事例研究を展開し、新たな言語研究の地平を切り開く。William F. Hanks による序文掲載。執筆者：大塚正之、井出祥子、岡智之、植野貴志子、新村朋美、成岡恵子、小森由里、小柳昇、河野秀樹



言語進化学の未来を共創する

岡ノ谷一夫・藤田耕司編

A5判・326頁・978-4-8234-1161-8 定価4,200円＋税 発行2022.10

階層性と意図共有を言語進化の2つの柱として、言語学および脳科学・生物学など各関連分野から未来の言語進化学への提言を行う。本書は、文科省新学術領域研究『共創言語進化』を進める中で組織された「若手の会」メンバーにより企画され、若手による意欲的な論考12編と、領域計画班代表5名によるコメント論文、そして自由闊達な座談会からなる。2022年9月に金沢で開催の国際学会『言語進化学合同会議』(JCoLE)開催記念出版。

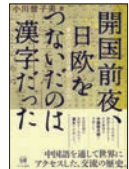


開国前夜、日欧をつないだのは漢字だった

東亜交流と日本語との出会い

小川蒼子美著 四六判・224頁・978-4-8234-1189-2 定価2,700円＋税 発行2023.6

辞書も教科書もない時代に日本語を学んだ西洋人と西洋語を学んだ日本人には、ある共通点があった。彼らは書き言葉としての中国語を用いていた。ペリー一行もヨーロッパの日本語学者もまた福沢諭吉の英学への取り組みも、漢文に支えられていた。日本と西洋が出会った歴史的場面で、未知の言語を話す相手を前に双方がどのようにサブチャンネルを活用したのか、本書は知られざる日欧の交流史を言語に焦点をあてて紹介する。



上田万年再考 日本言語学史の黎明

長田俊樹著 A5判・320頁・978-4-8234-1170-0 定価5,200円＋税 発行2023.3

本書の目的は既存の通説を打破して、新しい上田万年像を打ち立てることである。上田万年は称賛するにせよ、批判するにせよ、西洋言語学を日本に導入した人という評価は変わらない。その評価はどこまで正しいのか。そこが本書の出発点である。新村出筆録・柴田武校訂(1975)『シリーズ名講義ノート・上田万年 言語学』をネット上にある上田が参照したと思われる原書文献と照らし合わせ、上田の西洋言語学理解を検証する。



日本語文法史研究 6

青木博史・小柳智一・吉田永弘編

A5判・288頁・978-4-8234-1173-1 定価4,000円＋税 発行2022.11

本書は、日本語文法史研究の最新の研究成果を発信する論文集の第6号である。今号では「対照研究」をテーマとする小特集を組んだ。日本語諸方言、琉球語、韓国語、スペイン語といった対照研究の成果4本の他、当該分野の研究の深化を示した研究論文5本、今後の研究の展望を示したテーマ解説と名著紹介、直近2年分の研究文献目録を取めている。執筆者：青木博史、荻野千砂子、北崎勇帆、小柳智一、酒井雅史、澤田淳、志波彩子、竹内史郎、三宅俊浩、森勇太、吉田永弘



全国調査による感動詞の方言学

小林隆編 A5判・978-4-8234-1167-0 定価5,000円＋税 発行2022.11

驚きの声を挙げることに地域差はあるのだろうか。その疑問に答えるべく、感動詞をテーマにした全国1000地点規模の調査を行った。本書はそのデータを分析することで、感動詞の全国的な地域差を明らかにしようとするものである。狭義の感動詞に留まらず、生理音的な発声や動作のかけ声、行為指示・意思表示の表現、さらには挨拶的な言い回しも対象にする。執筆者：有元光彦、勝又琴那、川崎めぐみ、櫛引祐希子、小林隆、坂喜美佳、作田将三郎、椎名渉子、竹田晃子、田附敏尚、津田智史、友定賢治、中西太郎、鯉木礼子、松田美香



方言の研究 8 特集 感動詞の研究

日本方言研究会 A5判・356頁・978-4-8234-1130-4 定価5,000円＋税 発行2022.7

投稿論文3本、特集論文8本、また「解説」として「方言研究の方法」と「方言学を支えた人々」(各2本)を掲載する。特集は、第111回研究会のシンポジウムの発表をふまえ、さらに内容を充実させたものとなっている。執筆者：有元光彦、稲熊詩帆、今村かほる、岩城裕之、工藤真子、後藤典子、小西いずみ、小林隆、澤村美幸、下野雅昭、杉村孝夫、武田拓、田附敏尚、友定賢治、日高貢一郎、船木礼子、松田謙次郎、松田美香



方言の研究 9 特集 方言の計量的研究

日本方言研究会 A5判・272頁・978-4-8234-1198-4 定価5,000円＋税 発行2023.7

特集「方言の計量的研究」として論文5本、そのほかに論文1本、資料・情報1本、解説「方言研究の方法」「方言学を支えた人々」各2本を掲載する。特集論文はアクセント、コーパス言語学、接触言語形成、意味変化、言語意識と幅広いテーマを含む。執筆者：五十嵐陽介、岩田礼、大塚貴史、久保蘭愛、高丸圭一、田中ゆかり、谷口ジョイ、友定賢治、中川奈津子、松本和子、横山晶子ほか



越境者との共存にむけて

村田和代編 A5判・288頁・978-4-8234-1122-9 定価4,200円＋税 発行2022.2

日本社会における喫緊の課題である多文化共生をめぐり、ナラティブ分析というミクロアプローチから、言語教育政策や公共政策への提言といったマクロアプローチまで、分野を超えて多層的に考察する。ポストコロナの日本社会において、何を変えるべきなのか、誰が変わるべきなのか、越境者との共存や多様性をあらためて問い直す。執筆者：岩田一成、大石尚子、岡本能里子、片岡邦好、木村護郎、クリストフ、村田和代、山口征孝、吉田悦子、Julian CHAPPLE、Magda BOLZONI、Astha TURADHAR



日本手話で学びたい！

佐野愛子・佐々木倫子・田中瑞穂編

A5判・184頁・978-4-8234-1210-3 定価1,700円＋税 発行2023.7

手話話者の権利を訴えた『手話を言語と言うのなら』(2016)が刊行されて7年が経つが、日本手話を第一言語とするろうの子どもたちが学ぶ環境は依然として厳しい状況のままである。札幌聾学校において日本手話で学ぶ権利を求める訴訟が起こる中、国内外のろう・聴の研究者がともにその専門的見地からろう教育における自然言語としての手話の重要性を訴える。執筆者：オードリー・クーパー、菊澤律子、クリステル・フォンストロム、佐々木倫子、佐野愛子、ジム・カミンズ、杉本篤史、田中瑞穂、デボラ・チェン・ピクラー、戸田康之、富田望、ポール・ドゥディス、松岡和美、明晴学園、森壮也



手話が「発音」できなくなる時 言語機能障害からみる話者と社会

石原和・菊澤律子編

A5判・144頁・978-4-8234-1156-4 定価1,700円＋税 発行2022.9

「手話は言語である」といわれるようになって久しい。では、手話が「話せなく」となると、どうなるのか？本書では、交通事故で手話が部分的に「発音」できなくなった例をとりあげ、話者の立場、言語学からみた解釈、そして法律上の解釈を紹介する。アメリカでの類似の事例もとりあげつつ、手話が言語であるとは？と社会との関係を考える。執筆者：石原和、市田泰弘、菊澤律子、那須川訓也、原大介、スーザン・フィッシャー、藤原百合、藪之内寛



基礎日本語学 第2版

衣畑智秀編 A5判・362頁・978-4-8234-1195-3 定価1,800円＋税 発行2023.3

初版刊行後要望の多かった「文字・表記」の章を加えリニューアル。日本語学の諸分野を包括的にカバーする入門書。音韻、文法、語彙、表記、文体の共時的・通時的記述とともに方言やコーパス、日本語学史、理論的研究についても解説。簡潔ながらも要点を押さえた記述で諸分野の導入を図るとともに読書案内も付し、ますます日本語学が学びたくなる一冊。執筆者：五十嵐陽介、平子達也、衣畑智秀、金愛蘭、橋本行洋、澤田浩子、田中牧郎、平塚雄亮、佐野真一郎、窪田悠介、山東功



改訂版 社会言語学 基本からディスコース分析まで

岩田祐子・重光由加・村田泰美著

A5判・368頁・2刷・978-4-8234-1143-4 定価2,200円＋税 発行2022.3

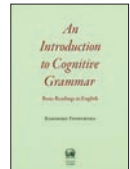
社会言語学の成り立ちから、最新の研究知見までカバーした『概説 社会言語学』の改訂版。社会言語学の基本的なテーマを扱う一方で、相互行為的社会言語学、談話分析、会話分析の章を設け、言語人類学、批判的談話分析に関しても充実させた。はじめて社会言語学を学ぶ学生だけでなく、これから談話分析を目指す学生にも役立つ内容である。言語と社会、言語と文化、異文化コミュニケーションに興味のある学生の読本としても使える一冊。■Kindle版も発売中。



An Introduction to Cognitive Grammar Basic Readings in English

吉村公宏著 菊判・100頁・978-4-8234-1145-8 定価1,600円＋税 発行2022.11

認知文法理論への超入門書。英語で書かれた専門書や論文は数居が高い。でも英語を使って専門知識を得たいもの。本テキストは平易な英語で認知文法に近づく道案内の書である。Exerciseでは英語で考え、英語でoutputする体験型テキスト。独習も可能。英語の運用力をつけながら理論を体感する構成となっている。教養レベル、専門の英語学・言語学における初学者向けの一冊である。テキストご採用の教員向け解答有。



フィールドワークではじめる言語学 なじみのない言語から考える

古閑恭子著 A5判・192頁・978-4-8234-1139-7 定価2,200円＋税 発行2022.3

言語学入門書にこそ、なじみのない言語を——！ 言語学テキストのほとんどは、最もなじみのある言語を中心に作られている。しかし、既存の枠組みを取っ払って考えるという言語学の基本を実践するのに、なじみのない言語こそ格好の素材である。日本語や英語とは違ったことばの世界があることを知り、なじみのある言語を見つめ直すことにもつながる。筆者の研究対象であるガーナの言語を主に取り上げ言語のしくみを紐解いていく、一味違った言語学入門書。



ベーシック応用言語学 第2版 L2の習得・処理・学習・教授・評価

石川慎一郎著 A5判・376頁・978-4-8234-1197-7 定価2,100円＋税 発行2023.3

初版刊行以降の動向、CEFRの補遺版や新指導要領の実施などを反映して大幅改定。また、新章として外国語教育における多様性と包摂性の問題、批判的応用言語学について論じた章を加える。外国語はどのように習得されるのか、どのように指導するのが効果的なのか、どうすれば能力を正しく測定できるのか…。第2言語(L2)の習得・処理・学習・教授・評価の問題を統合的に位置づけ全体像を示す。外国語教育に関わるすべての人に必携の書。



ここからはじまる国語教室

達富洋二編著 A5判・316頁・978-4-8234-1196-0 定価2,400円＋税 発行2023.4

児童生徒を主体とした国語学習においては、児童生徒自身による「言語活動を納め得るようにやり遂げるための解決策や計画をどうするか」や「自分は何かができるようになるのか」に主眼を向けるべきと考える。児童生徒自身が主体的に生きていくための言語活動を教室で学ぶ言語活動によって実現することを目的においた新しい国語科教育の教科書。現場の教師の問いにこたえていくことに新しい言語教育を提言する。学習指導要領に準拠。



レジリエンスから考えるこれからのコミュニケーション教育

村田和代編 A5判・224頁・978-4-8234-1165-6 定価2,900円＋税 発行2022.10

コロナ禍で大きくコミュニケーションの有様が変容した状況で、教育も大きく変わらざるを得なかった。予期せぬ困難は、今後も起こりうることを誰しもが感じているが、本書では、教育、とりわけ言語・コミュニケーション教育を「レジリエンス」という側面から考える。今後、我々の経験をどのように生かしていくことができるのかも含め多様な領域から議論する。執筆者：松下達彦、池田麻衣子、村田和代、秦かおり、嶋津百代、熊谷由理、吉田悦子、中村香苗、漆銘宏、チャプル・ジュリアン、横溝耕一郎、柳瀬陽介、岡本能里子



日本語プロフィシエンシー研究の広がり

鎌田修監修代表 鎌田修・由井紀久子・池田隆介編

A5判・480頁・978-4-8234-1137-3 定価4,400円＋税 発行2022.10

「プロフィシエンシー」(熟達度)が第一、第二言語使用者の運用能力研究に使われるようになって久しい。非流暢だが自然な日本語、視覚・聴覚障害者や定住外国人の社会エンゲージメント、談話分析、ライティング、e-Learning、教師養成など多岐多様に渡る日本語プロフィシエンシー研究の広がりを著者全員のピアレビューの後、一挙に披露した珠玉の論集である。執筆者：東健太郎、麻生迪子、池田隆介、和泉元千春、伊藤亜紀、伊東祐郎、岩崎典子、宇佐美まゆみ、閼琳、遠藤智子、奥野由紀子、鎌田修、北川幸子、阪上彩子、坂本正、桜井千穂、定延利之、佐藤慎司、島津百代、嶋田和子、白鳥文子、立部文崇、田中真理、塚田智冬、堤良一、中井好男、西川寛之、野山広、長谷川哲子、林良子、范一楠、船橋瑞貴、松田真希子、丸山岳彦、溝部エリ子、三井久美子、山路奈保子、由井紀久子



日本語コミュニケーションのための聴解教材の作成

野田尚史・中尾有岐編

A5判・264頁・978-4-8234-1120-5 定価3,200円＋税 発行2022.3

日本語学習者向けの聴解教材の作成方法を解説する。実際に聞く必要がある日本語を分析し、学習者が聴解で難しい点を調査した上で、コミュニケーションに役立つ聴解教材をどのように作成すればよいかを提案する。例として取り上げるのは「飲食店スタッフの発話を聞く教材」「雑談を聞く教材」「講義を聞く教材」「会議の発話を聞く教材」である。国語教育にも有益。執筆者：久保輝幸、阪上彩子、島津浩美、首藤美香、鋤野亜弓、高山弘子、太原ゆか、中尾有岐、中山英治、野田尚史、萩原章子、日比伊奈穂、村田裕美子、吉川景子



日本語コミュニケーションのための読解教材の作成

野田尚史・桑原陽子編

A5判・280頁・978-4-8234-1121-2 定価3,200円＋税 発行2022.11

日本語学習者向けの読解教材の作成方法を解説する。実際に読む必要がある日本語を分析し、学習者が読解で難しい点を調査した上で、コミュニケーションに役立つ読解教材をどのように作成すればよいかを提案する。例として取り上げるのは「葉の表示を読む教材」「ネット上のクチコミを読む教材」「白書を読む教材」「論文を読む教材」である。国語教育にも有益。執筆者：任ジェヒ、王麗莉、加藤陽子、北浦百代、桑原陽子、小西円、塩田寿美子、白石実、蘇銘衛、中島晶子、野田尚史、松下光宏、山口美佳、山本晃彦、吉本由美



ピア・ラーニング入門 改訂版 創造的な学びのデザインのために

池田玲子・館岡洋子著

A5判・186頁・978-4-8234-1172-4 定価2,400円＋税 発行2022.11

好評の『ピア・ラーニング入門』改訂版。ピア・ラーニングとは、仲間 (peer) 同士で学び合う学習のこと。理論編として、協働の概念を整理し、様々な教育分野で実現された協働の形を紹介した上で、日本語教育における協働のありかたを探る。実践編として、ピア・レスポンス及びピア・リーディングの学習活動の例を紹介し、その意義について検討。さらに、ピア・ラーニングを実践する日本語教師の養成、研修について解説する。



一人ひとりのことばをつくり出す国語教育

府川源一郎著 A5判・352頁・978-4-8234-1141-0 定価2,800円＋税 発行2022.3

国語教育は、ことばによる一人ひとりの自立を支援する教育的営みである。学びの場でそれを具体的に実現するには、どのような準備と考え方が必要なのか。本書は、この問題を以下の三つの観点から検討する。1. 国語科の教育内容の問い直し、2. ことばの学びの成立に関わる事例の考察、3. 史的観点からの位置づけの更新。新稿も含めて、著者による最新の成果を集成した創見に満ちた論考集。



国語科における「話し合い」学習の理論と実践

内田剛著 A5判・352頁・978-4-8234-1124-3 定価7,800円＋税 発行2022.3

新型コロナウイルス感染拡大に伴うオンライン・ツールの普及によって、私たちのコミュニケーションは否応なしに変化を迫られている。このような変化の時期だからこそ、私たちは冷静に「話し合う」ことの重要性を再認識しなければならない。本書は明治期から現在における国語教育の「話し合い」学習が、どのような理論や目標に基づいて行われてきたかを分析した上で、今求められる「話し合い」学習の具体的な実践案を提案している。



読解力を高め自信をつける先行学習 決め手はあなたの指導技術

鍋木良夫著 A5判・320頁・978-4-8234-1154-0 定価2,400円＋税 発行2023.3💡

授業を変えたいと思っている教員に、読解力が高まる習得から活用へと進む「先行学習」型の指導法と、いじめ予防にもつながる授業スキルを提供する。教える側の授業スキル次第で、生徒の読解力と人間力は大きく向上する。いつでもどこでも使える39の授業スキルを手にして指導力を高めよう。『もっとわかる授業を！「先行学習」のすすめ』(高陵社、2015年)に大幅な改稿を加えた改訂増補版。



ワイド新版 英語学習 7つの誤解

大津由紀雄著 A5判・208頁・978-4-89476-780-5 定価1,600円＋税 発行2022.3

「英語学習は早く始めるほどよい」、「留学すれば英語は確実に身につく」、「英語学習は母語を身につけると同じやり方で進めるのが効果的である」など、英語学習に関してよく耳にする7項目を取り上げて、それがじつは誤解であることをわかりやすく解説する。そのうえで、英語学習ではどんな方法が効果的なのかを探る。英語使いの達人たちがどうやって英語を身につけたかについてのアンケート調査の結果も収められている。NHK出版の生活人新書の改訂新版。



英日通訳翻訳における語順処理 順送り訳の歴史・理論・実践

石塚浩之編 A5判・344頁・978-4-8234-1176-2 定価7,400円＋税 発行2023.2💡

英語を日本語に訳す際には、統語構造の違いから、語順の逆転が当然と思われがちである。一方、翻訳の実務や指導においては、語順を保持すべしとされることが多い。本書は、英語から日本語への通訳翻訳における語順処理の問題を多面的かつ包括的に論じた初の研究書であり、通訳翻訳の実務や英語教育における訳のあり方に新たな理論的視点を示す。執筆者：石塚浩之、稲生衣代、岡村ゆうき、小川陽香、辰己明子、長沼美香子、畑上雅朗、平岡裕資、船山伸他、水野的、溝脇孝哲、山田優(日本学術振興会助成刊行物)

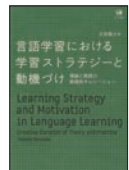


言語学習における学習戦略と動機づけ

理論と実践の創造的キュレーション

大和隆介著 A5判・316頁・978-4-8234-1116-8 定価5,500円＋税 発行2023.1💡

AIによる翻訳によって外国語学習は不要になってしまうのか。本書は、言語学習の成否に大きな影響を与える「学習戦略」と「動機づけ」に注目して、現代社会が求める、機械翻訳では代替できない統合的コミュニケーション能力を育成する英語教育の在り方について論じる。前半で2つのテーマにかかわる諸理論について創造的キュレーション(知的探索と整理)を行ない、後半では理論に関連した実証的研究を報告し、続いて効果的指導について論じている。



英語授業をよくする質的研究のすすめ

笹島茂・宮原万寿子・末森咲・守屋亮編

A5判・184頁・978-4-8234-1188-5 定価2,200円＋税 発行2023.6

英語教育をよい方向に導き、英語授業や学習をより魅力的にするには、質的研究が望ましいと考える。量的研究を否定するのではなく、実践的に英語教育を含めた言語教育や教育全体を改善するには、多面的な研究や実践がもっと必要である。そのための一歩として、小中高で英語教育に携わる教師や教師を目指す人に、質的研究をより身近に考えてほしいと意図し、本書を作成した。執筆者：笹島茂、玉井健、柳瀬陽介、宮原万寿子、上條武、飯田敦史、末森咲、守屋亮

「気づき」をうながす文法指導 英語のアクティブ・ラーニング

島田勝正著 A5判・208頁・978-4-8234-1164-9 定価3,600円＋税 発行2022.12

文法指導はどうあるべきか？ 本書では、教師による一方的な文法説明に代わるものとして、アクティブ・ラーニングを導く課題解決型の文法指導を提案する。具体的には、第二言語習得過程の各々の段階に対応して、意識化指導、認知文法、ディスコース、インプット、アウトプット、タスク、訂正フィードバックの7つの観点から、「気づき」をうながす英語の文法指導の基盤となる理論を解説し、その実践例を紹介する。

ポストコロナル時代の人文学と東アジア文化圏2

新世紀の文学研究 一国主義を超えて

千野拓政・鳥羽耕史編

A5判・344頁・978-4-89476-979-3 定価3,700円＋税 発行2023.5

グローバル化とともに激変する世界の中で、難しい位置に立つ文学。もはや日本、中国といった単体で考える意味は薄れている。創作の現場で作家はどのような問題に直面し、研究者はそれをどう捉えることができるのか。日本と中国の最先端で活躍する作家・研究者が文学の現状と未来を語り尽くす。執筆者：酒井直樹、古川日出男、閻連科、王曉明ほか

並行世界の存在論 現代日本文学への招待

加藤夢三著 四六判・202頁・978-4-8234-1181-6 定価2,800円＋税 発行2022.12

なぜ(ある特定の)人びとは、ただひとつの現実世界に飽き足らず、並行世界というものに強く惹きつけられるのか。並行世界に思いを馳せるとはどういうことなのか。私たちにとって並行世界とはどのような意味を持つのか。本書は、こういった問いの枠組みを、哲学でも心理学でもなく自然科学でもなく、文学研究の立場から考えようとする試みである。それは、個別具体的な作品分析を通じて、並行世界という舞台設定が担う思想的な潜勢力を解き明かす企てともなるだろう。

小説のフィクションリティ 理論で読み直す日本の文学

高橋幸平・久保昭博・日高佳紀編

A5判・356頁・978-4-8234-1162-5 定価4,000円＋税 発行2022.8

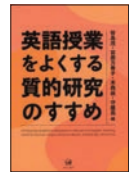
小説がフィクションであるとはどういうことか——。分析美学の影響下に、ポスト構造主義以降の文学・芸術理論を形成しつつあるフィクション論。欧米の主要な理論的アプローチを概観しながら日本独自の「フィクションリティ」を照射し、近現代小説の新たな読みを提案する。巻末に「読書案内」としてフィクション論主要文献リストを付す。執筆者：高橋幸平、久保昭博、日高佳紀、河田学、大浦康介、黒田大河、中村三春、西田谷洋、服部徹也、飯田祐子、ホルカ・イリナ、山本歩、西川貴子、笹尾佳代、ボーヴィウ・マリ＝ノエル

ジェンダー×小説 ガイドブック 日本近現代文学の読み方

飯田祐子・小平麻衣子編

A5判・258頁・978-4-8234-1192-2 定価2,200円＋税 発行2023.5

日本近代文学研究におけるフェミニズム・ジェンダー研究の問題意識と成果を、文学史に目配りしながら解説し、主要なテーマを扱った小説について、あらすじやみどころを紹介する。気になる問題が描かれた小説を読みたい方、小説をフェミニズム・ジェンダー論で分析してみたい方のための入門書。執筆者：飯田祐子、泉谷瞬、井原あや、大串尚代、小平麻衣子、康潤伊、木村朗子、久米依子、倉田容子、黒岩裕市、笹尾佳代、篠崎美生子、武内佳代、竹田志保、徳永夏子、内藤千珠子、中谷いずみ、堀ひかり、光石亜由美、村上陽子、米村みゆき



卒業論文マニュアル 日本近現代文学編

斎藤理生・松本和也・水川敬章・山田夏樹編

四六判・242頁・978-4-8234-1146-5 定価1,700円＋税 発行2022.10

日本近現代文学で卒論を書こうとしたら、何から手をつけたらよいだろうか。必要な準備、分析の手立て、執筆の進め方は？ 本書は、作品研究に重点を置いた、現代の研究環境を踏まえた上での卒論執筆のマニュアルとなる。テーマ決めの段階から提出前の推敲まで、読者をサポートする。執筆者：安部水紀、荒井真理亜、小谷瑛輔、斎藤理生、佐藤希理恵、武久真士、広瀬正浩、松本和也、水川敬章、山田夏樹、吉田恵理、吉田竜也、禧美智章、渡邊英理



文学研究の扉をひらく 基礎と発展

石川巧・飯田祐子・小平麻衣子・金子明雄・日比嘉高編

A5判・360頁・978-4-8234-1136-6 定価2,200円＋税 発行2023.2

本書は、作品を「読む」というのはどのような行為なのかという問いから出発し、精緻に読解する方法と技術を習得するとともに、文学研究の知識、資料の集め方、分析の視点を習得するためのテキストである。基礎編「研究へのアプローチ」、実践編「批評理論を用いた分析」の全15章からなり、オンライン授業にも活用できる工夫を凝らした。執筆者：飯田祐子、石川巧、大木志門、大島丈志、小平麻衣子、金子明雄、川崎賢子、久米依子、高榮蘭、斎藤理生、佐藤泉、出口智之、内藤千珠子、日比嘉高、山口直孝、渡部裕太



昭和の文学を読む 内向の世代までをたどる

外村彰編 A5判・296頁・978-4-8234-1138-0 定価2,000円＋税 発行2022.4

「昭和」の時代を1927年から1970年まで、象徴的に区切って全11章に仕立てた文学史のテキスト。各章の冒頭では読者に向け、当該の時代・社会状況から作品の解釈、あるいは文学者個人の動向までを絡めたいくつかの「問い」を提示した。また各章の後半には小説・童話・詩歌などを収録。文学史の学びプラス文学講読にも役立つよう編集をした書である。執筆者：外村彰、橋本正志、辻本千鶴、田村修一、楠井清文、福田涼、島田龍、古澤夕起子、藤原崇雅、東口昌央



中国現代文学 24

中国現代文学翻訳会編

A5判・152頁・978-4-8234-1107-6 定価2,000円＋税 発行2022.3

現代中国の文学作品を翻訳・紹介する『中国現代文学』の第24号。双雪濤「平原のモーセ」(連続強盗殺人事件と二人の幼なじみは、どうつながっていくのか?)、畢飛宇「作り事」(亡き祖父の最後の願いとは?)、王蒙「灰色の鳩」(80年代初めの中国、農村から都会へ出稼ぎにやってきた若者の夢と現実)、史鉄生の晩年の詩三編(「今晩は夜明けまで起きていよう」「トニーとニーチェ」「グリゴラ」)、本の紹介などを掲載。



現代中国人に日本はどう「イメージ」されるか

メディアが構築する21世紀の日本

江暉著 A5判・388頁・978-4-89476-950-2 定価7,200円＋税 発行2023.10

本書は日中関係及び日本社会における対中世論の現状とその問題点を踏まえ、中国の一般国民が認識している「日本」の全体像を体系的・学術的に提示することを目的としている。「認知」と「評価」、「感情」、「行動意図」という4つの要素から中国人が抱く「日本イメージ」を再定義し、その構造内部における力学関係、またその形成過程において「内的心理要素」と「外的情報源」の種々の規定要因が果たしている役割を実証的に考察することを試みた。



エドモン・ド・ゴンクール著『北斎』覚書

鈴木淳著 A5判・208頁・978-4-8234-1115-1 定価3,800円＋税 発行2022.8

エドモン・ド・ゴンクール著『北斎』は、著者が古美術商林忠正の助力を得て、北斎に美術史上の評価を与えた、先駆的業績であるが、その評価はいかなるものであったか。筆者の見解は、ゴンクールが、「版画の世紀」と謳われたエッチングを中心とするフランス版画と同じ土俵に北斎を上せ、版画家でもあった弟ジュールとの共著『十八世紀の美術』の延長線上に、世界美術史上の類稀なデッサン画家として位置付けたというものである。



サイエンスコミュニケーションとアートを融合する

奥本素子編 A5判・272頁・978-4-8234-1175-5 定価5,000円＋税 発行2023.2

先端的な科学技術が社会に実装される際に、その間をつなぐものがサイエンスコミュニケーションである。そこにアートを取り入れたとき、どのようなコミュニケーションが生まれるのか。本書ではアートとサイエンスコミュニケーションの交差の歴史を紹介しながら、アートを活用した活動のデザインについても触れていく。執筆者：奥本素子、仲居怜美、朴炫貞、室井宏仁
〈日本学術振興会助成刊行物〉■ Kindle版も発売中。



消費者の向社会的行動原理

カスタマー・ハラスメント予防のためのコミュニケーション
榎澤祐一著 A5判・204頁・978-4-8234-1187-8 定価5,000円＋税 発行2023.3

カスタマー・ハラスメントが近年、注目を集めている。この問題に対しては企業から従業員への対処法教育が解決のアプローチとして主流とみられるが、元より問題が生じにくくするにはどうしたら良いのか。本書はマーケティング・コミュニケーションの観点から、サービス全般への適用可能な示唆を試みた。発達心理学の知見から仮説を設定し、エンタテインメント・イベントを題材に日本と中国で質問紙実験を実施した。



パフォーマンス・アプローチ心理学 自然科学から心のアートへ

フレド・ニューマン、ロイス・ホルツマン著 茂呂雄二監訳 岸磨貴子・北本遼太・城間祥子・大門貴之・仲嶺真・広瀬拓海訳
A5判・322頁・978-4-8234-1160-1 定価2,800円＋税 発行2022.10

19世紀の成立以来、危機が叫ばれ続けてきた心理学。現在の隆興も、科学性の勝利というよりも、社会と文化の心理学化と心理学の産業化の結果にすぎないと批判するニューマンとホルツマンは、生活の形を変えるためのアートとしての心理学を提案する。それは自然科学を模倣し心の内部を覗き込み測定する科学的心理学を超えて、人々がコミュニティ作りを通して、新しい振る舞い、新しい声、新しい生を紡ぎ出す新しいアプローチだ。原著：Fred Newman and Lois Holzman (著) *Unscientific Psychology: A Cultural-Performatory Approach to Understanding Human Life*.



小劇場演劇とは何か

後藤隆基編 A5判・256頁・978-4-89476-972-4 定価3,600円＋税 発行2022.3

近代日本演劇史に〈小劇場演劇〉を位置づけ、その流れを辿る。さらに歴史的観点とともに、現在においてどのような劇団がどのような活動をしているのか、現代の小劇場演劇の諸相についても考察する。また、日本に留まらず世界の小劇場演劇の様相についても概説し、総合的に小劇場演劇について理解を深めることができる一冊。執筆者：石川巧、梅山いつき、加藤敦子、後藤絢子、後藤隆基、嶋田直哉、高萩宏、仲田恭子、中村邦生、新野守広、早船聡、日置貴之、堀切克洋、松本和也



聖書ヘブル詩の並行法 詩行の反復表現が表すもの

津村俊夫著 A5判・264頁・978-4-8234-1135-9 定価4,800円＋税 発行2022.11

本書は聖書に記されている詩(ヘブル詩)について、詩独自の文法に注目することで新たな解釈を示す。詩の文法を分析する必要性を唱えた、ヤーコブソンの議論を踏まえて、ヘブル文字をローマ字転写した本文と最新の邦訳聖書を比べながら、漢詩やモンゴル語、スラブ語の詩にも見られる並行法の特徴を、多くの具体例から検討する。聖書学だけでなく、言語学・詩学の研究にも資するところが大であろう。



デュルケーム世俗道德論の中のユダヤ教

ユダヤの伝統とライシテの狭間で
平田文子著 A5判・304頁・978-4-8234-1101-4 定価7,000円＋税 発行2022.2

デュルケームは、ラビの継承者でありながらユダヤ教信仰を棄ててフランスの世俗道德論者になった。この通説に対して、ユダヤ教に根拠を置いて彼の道德的連帯論を検討することが本書の目的である。近代以降キリスト教に対抗して進展してきた民主主義は、その基盤に世俗主義を掲げてきた。彼の世俗道德論をユダヤ教の法概念に照らして解釈することは、「キリスト教から世俗主義へ」という近代西洋思想の展開に新たな視点を与える。〈日本学術振興会助成刊行物〉



ディラブディ

與那覇悦子・山本史・山田真寛

A4判・40頁・978-4-8234-1050-5 定価 1,600 円＋税 発行 2022. 5

与那国島の民謡を元にした与那国語による創作物語。与那国語の詳しいことばの解説付き。朗読音声・動画がネットにあり。

おなかをすかせた子どもたちのために、ディラブディはたいまつを、ウデヤマとイサは鉾を持って、アプヒティ浜に魚をとりに行きました。イラブタイユ、ミサダイユ、ミーバイ、カタカシン…ウブダヌ浜に上がって突いた魚を数えると、360匹！ 家族みんなでおいしく食べました。



塩一升の運(ましゅ いっしゅーぬ くれー)

松村雪枝・田中美保子・山本史・横山晶子

A4判・44頁・978-4-8234-1053-6 定価 1,600 円＋税 発行 2022. 1

沖永良部島で古くから伝わる昔話。沖永良部語の詳しいことばの解説付き。朗読音声・動画がネットにあり。

浜辺で長者がうたた寝していると、神様たちの話し声が聞こえてきた。集落で生まれた赤ん坊に運命を授けに行くという。女の子には塩一升の運、男の子には竹一本の運が授けられた。二人はやがて夫婦になるが、ある事がきっかけで夫が妻を追い出してしまう。数年後再会した二人はすっかり命運が分かれていて…。言葉と語りの多様性を感じられる絵本です。



カルタ

んきゃーんじゅくカルタ(宮古島の昔のことわざカルタ)

宮古語・日本語・英語の三言語カルタ

さどやませいこ絵・ことわざ選定 藤田ラウンド幸世編

箱入り・読み札 48 枚／絵札 48 枚・978-4-8234-1182-3 価格 2,500 円＋税 発行 2022.10

宮古島のことわざ、「んきゃーんじゅく(先人の知恵)」。昔の宮古島の自然と生活風景がことわざの中に残されている。カルタの読み札は、宮古語、日本語、英語の三言語、宮古語は2次元コードからさどやませいこさん(1950年生まれの宮古島ネイティブ、ことわざ選定と絵を担当)の声で聞くことができる。付属の解説シートとさらにウェブサイトのことわざや宮古島の先人の知恵について紹介。「んきゃーんじゅく」で宮古島の魅力を満喫できる。



これから刊行する書籍のご案内

ひつじ研究叢書(言語編)

第94巻 日本語情態修飾関係の研究

矢澤真人著 A5判・978-4-89476-544-3

日本語の情態副詞に関する研究。3部からなる。第1部は副詞研究史。明治期から現代まで、副詞や連用修飾関係の研究が何を目的としてどのように行われたかを概観する。第2部は情態修飾関係分類論。語順、修飾の奥行き、アスペクト的意味への制限と言った基準から、情態修飾関係の機能的な分類を試みる。第3部は日本語順論。格成分と修飾成分の相互語順の検討を通して、文の階層的構造を明らかにする。

第174巻 推論と証拠性

認知構造の日中対照研究

呉蘭著 A5判・978-4-8234-1038-3

日中証拠性表現を一般言語学的に位置づけ、認知意味論の観点から、各表現の共通点と相違点を明確に詳述する。また証拠性表現の各用法の関連性も統一的・包括的に説明し、さらに隣接する認識モダリティ表現との相違や共起制限も通言語的な理由で説明する。そして、認知類型論の観点から、推論過程全体を表示する傾向がある日本語タイプと、推論結果の焦点のみを表すことが多い中国語タイプに分類し、これを他の言語にも適用できると予測する。

第176巻 中国語の役割語研究

河崎みゆき著 A5判・978-4-8234-1055-0

中国語にも役割語が存在するのか、するならどのような生地で、中国語の特質とどう関係するのか、翻訳や外国語教育、言語学に貢献しうるかを以下の面から調査研究した。1. 中国語の方言と人物像、2. 中国伝統の「役割語」、3. 非言語行動と人物像、4. 非言語成語と人物像、5. 命名と人物像、6. ネット上のキャラ現象、7. 「役割語」のリソースとしての小学校語文教科書。2017年に北京・商務印書館より発行した本の日本語版。

第189巻 形容詞類およびオノマトペの形態統語的研究

漆原朗子著 A5判・978-4-8234-1140-3

形容詞類は動詞・名詞に比して通言語的な変異が顕著である。本書では、まず諸言語の形容詞類の形態統語的特徴を概括する。そのうえで、日本語の形容詞といわゆる「形容動詞」の範疇と統語的振舞いを分散形態論の枠組みで分析、朝鮮語と比較する。その際には述語化にかかわる繫辞(コビュラ)の同定も行う。さらに、日本語に特徴的なオノマトペの様々な用法についても、それらの意味と形態統語的実現の対応に関する分析を提示する。

第198巻 日本語変異論の現在

大木一夫・甲田直美編 A5判・978-4-8234-1186-1

日本における近代的な日本語研究は現代の共通語的なものを対象にするというよりも、日本語の歴史的・地理的変異を中心的な対象としてはじまった。では、その日本語変異論は現在どこまですすんでいるのだろうか。本書では、現代日本語の方言・共通語の現象、歴史的現象をそれぞれ日本語の変異のひとつとしてとらえ、その構造や類型、社会との関係などの様相を多面的に明らかにする。本書は、また小林隆教授退職記念論文集も兼ねる。

第199巻 日本語助詞「を」の研究

佐伯暁子著 A5判・978-4-8234-1201-1

本書は、古代語と現代語の両面から、助詞「を」の体系化を目指したものである。まず、現代語の格助詞「を」の個別用法とそれら各用法のつながり、古代語と現代語の二重ノ格について実証的に考察する。そして、現代語に残存する接続助詞「を」を取り上げ、その歴史の解明を通して、接続助詞的な「を」との関わりへと展開する。文法変化も視野に入れることで、格助詞「を」・接続助詞的な「を」・接続助詞「を」の連続性を論証する。

第201巻 新漢語成立史の研究

張春陽著 A5判・978-4-8234-1193-9

近代における漢字文化圏の最も顕著な言語現象の1つとして、西洋文化を導入するための新漢語の成立があげられる。本書では、これまでの研究ではあまり触れられることのなかった具象概念を表す新漢語をとりあげ、成立過程を考察する。それにあたり、人的交流によって成り立った幕末・明治期の遣外使節団の西洋見聞録類、また、西洋から取り入れられた物の導入を記す公的記録資料の新漢語研究における資料的価値も明らかにする。

第202巻 「関係」の呼称の言語学

日中対照研究からのアプローチ

薛鳴著 A5判・978-4-8234-1212-7 定価4,800円＋税

「関係」をキーワードに、その最たるものとも言える「親族名称」とその呼称としての用法を日中対照の視点から分析していく。言語形式としての親族名称の枠組みの記述と、言語使用としての呼びかけの呼称の使い方の考察を行う。話者との関係性の有無を指標として導入することにより、日中母語話者の呼称の使い方の根本的な相違を明らかにした。著者の長年の研究に新たな知見が加わった、日中の親族名称に関する初の研究書である。〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

第203巻 現代日本語の逸脱的な造語法「文の包摂」の研究

泉大輔著

A5判・978-4-8234-1215-8 定価 6,800 円＋税

「振り込め詐欺」「かまってちゃん」「いいねボタン」「話しかけるなオーラ」という語の特異性はどのように説明できるだろうか。本書では語の内部に“文”相当の要素が含まれる現象を「文の包摂」と名付け、実例を豊富に取り上げる。それらの形式的・意味的特徴を記述した上で、引用、命名、表現効果などの観点から成立原理を説明する。逸脱表現研究のみならず、日本語史研究・他言語研究の新たな地平をも拓く、実証的かつ挑戦的な研究書。(日本学術振興会助成予定刊行物)

第204巻 英語抽象名詞の可算性の研究

英語教育の視点から

小寺正洋著 A5判・978-4-8234-1222-6

英語抽象名詞の可算性に関して解明すべき問題点を整理し、先行研究の主張を検証した。「適切な文脈があればすべての名詞は可算・不可算のどちらでも用いられる」と「不可算抽象名詞は修飾を伴うと不定冠詞と共に起る」の2つの主張についてアンケート調査およびコーパスデータにより支持されないことを示した。また、抽象名詞が可算解釈を得るメカニズムを調べ、英語学習辞典の可算・不可算表記の問題点を指摘し改善案を提示した。

第205巻 音声・音韻の概念史

阿久津智著

A5判・978-4-8234-1227-1 定価 10,000 円＋税

本書は、音声・音韻分野における用語の歴史に関する研究書である。本書では、語義や語形の変化の記述を中心とする従来の語史(語誌)研究に、専門的な概念の形成や名称の成立の過程を重視し、それを文脈の中で、他の語(概念)と対比しながら分析するという概念史的な方法を加えるという試みを行った。取り上げた用語は、「音声」「発音」「発声」「音節」「音素」「音」「音韻論」「音声学」「音韻学」「半濁音」「音韻」である。

講座 言語研究の革新と継承【全8巻】

3 語用論

林宅男編 A5判・978-4-89476-669-3

幅広い語用論研究の分野を広くカバーし、現代の語用論研究を見通せることができる一冊。執筆者:高見健一、井出祥子、加藤重広、金水敏、龍城正明、泉子・K・メイナード、松本善子、林礼子、小野寺典子、益岡隆志、西山佑司、澤田治美、山口治彦、野田尚史、庵功雄、牧野成一、岩崎勝一、内田聖二

言語学翻訳叢書

22 これからの言語学(仮)

ダイナミックな視点から言語の本質に迫る統語論

ジム・ミラー著 岸本秀樹監訳 吉田悦子・久屋孝夫・三浦香織・久屋愛実訳 A5判・978-4-8234-1091-1

言語には異なるモード(話しことば、書きことば)や変種(地域的、社会的)が存在する。本書は、統語分析の対象から外

されることが多い標準から逸脱した変種であっても、信頼できるデータを十分に観察すれば、言語現象を適切に分析できることを解き明かす。多彩な事例から言語の本質に迫ろうとするアプローチは、記述文法のみならず、形式文法においても十二分に価値を持つ。丁寧な訳注とコラムも付いて、新たな文法研究に挑む醍醐味を実感できる一冊。原著:Jim Miller (著) *A Critical Introduction to Syntax*.

Hituzi Linguistics in English

No.37 Perception and Linguistic Form

A Cognitive Linguistic Analysis of the Copulative Perception Verb Construction

徳山正美著

菊判・978-4-8234-1211-0 定価 11,000 円＋税

本書は知覚動詞構文に関する様々な疑問を解き明かす。Mary looks happy. は「私」が認知主体なのになぜMaryを主語とするのか。Mary appears happy. とはどう異なるのか。That sounds interesting. の動詞はなぜlisten ではダメなのか。非文法的とされるI saw him tall. のような構文が小説などで散見されるのはなぜか。これまで見過ごされてきた言語事実を提起し、談話データの文脈的要因に焦点を当てて知覚動詞構文を認知言語学的そして語用論的に捉え直す。

No.38 The No More A than B Construction

A Cognitive and Pragmatic Approach

廣田篤著 菊判・978-4-8234-1225-7

本書は、No More A than B 構文、特に「クジラ構文」とは何か、その本質を解明しようとするものである。その際、2つのアプローチを採用する。1つは、認知文法に基づいた構文の意味構造図の記述である。もう1つは、推論における「対偶」の關係に着目した語用論的な分析である。そうしていくつかある用法を動機づける条件を検討し、従来様々な議論されてきた構文の用法間の關係に対して原理的な説明を与える。

シリーズ言語学と言語教育

45 日本語学習から見た〈機能語〉の類の研究(仮)

日本語能力試験1級〈機能語〉の類の分類に基づいて

松原幸子著 A5判・978-4-8234-1149-6

かつて日本語能力試験には「出題基準」というものがあり、そこには1・2級のレベルを示すために〈機能語〉の類のリストが五十音順に掲げられていた。これは現在も有効であると考えられているが、明確な定義や規定はなく、体系的・理論的に論じられることもなかった。本書は1級の〈機能語〉の類の一つ一つを主に品詞に基づいて分類し、文法的働きを確かめることを通して、その特色と日本語学習上の位置付け、さらに学習の意義を明らかにすることを目指した。

46 作文教育の日中対照研究

前川孝子著 A5判・978-4-8234-1185-4

中国語を母語とする日本語学習者が日本語で書いた作文は、文法としては正確なのに、「何か」が違う。それは何なのか。

それは何に由来するのか。この疑問に答えるため、本書では日本・中国それぞれの国語における作文の規範に注目する。両国において模範と見なされる文章の分析を通じて、「意見はどのように書かねばならないか」「どのように論証しなければならないか」という枠組みの差異を多面的に明らかにする画期的研究。

シリーズ日本語を知る・楽しむ

3 季節のつめ合わせ (仮)

古代文学編

福田孝著 四六判・978-4-8234-1152-6

奈良平安期の有名12作品の散詩文集。季節の風物が出てくる原文を読みながら各作品の特徴をわかりやすく説明する。古めかしい衣装をまとうているかもしれない作品をいまの作品のように身近に感じて自身で手に取って楽しく読むための案内書でもある。春『土左日記』『伊勢物語』『うつは物語』『古事記』夏『和泉式部日記』『枕草子』秋『源氏物語』『かげろふ日記』『竹取物語』『万葉集』冬『おちくぼ物語』『更級日記』。

シリーズ 言語・コミュニケーション研究の地平【全3巻】(伝康晴・前川喜久雄・坂井田瑠衣監修)

自己と対峙する

吉川正人・佐治伸郎・土屋智行編

A5判・978-4-8234-1125-0

LC (Language and Communication) 研究会による研究成果をまとめたシリーズ。本書では、言語行動だけでなく、音韻や構文など言語知識の内実、言語の構造的側面や規則性に関する探求も含め、ヒトの内的プロセスに目を向けることを「自己と対峙する」とことと捉えた。様々な分野にまたがるバラエティ豊かな論考を収録。執筆者：浅原正幸、石本祐一、加藤祥、佐治伸郎、全美柱、田島弥生、土屋智行、寺岡文博、堀内ふみ野、前川喜久雄、吉川正人

他者と対峙する

有本泰子・坂井田瑠衣・岡田将吾編

A5判・978-4-8234-1126-7

LC (Language and Communication) 研究会による研究成果をまとめたシリーズ。他者とのコミュニケーションにおいては、感情状態、非言語的要素、背景にある社会的関係といった様々な要素が絡み合う。本書には多様なアプローチからの論考を収録し、「人はいかにして他者と対峙するのか」という根源的な問いに迫る。執筆者：天谷晴香、有本泰子、居友里子、榎本美香、岡田将吾、岡本雅史、小室允人、坂井田瑠衣、城綾実、伝康晴、坊農真弓、山本真理

シリーズ フィールドインタラクション分析(高梨克也監修)

2 鮎屋で握りを注文する (仮)

平本毅編 A5判・978-4-89476-732-4

この巻では、江戸前鮎屋にフィールドを求め、親方をはじめとする店員と客とのインタラクションを分析する。和食のユネスコ無形文化遺産登録もあって、日本の食文化が世界的に注目を集めているが、日本の食文化の少なくとも一部は、外食サービスの現場で形成されるもののはずである。鮎屋の注

文場面の分析を通じて、独特なインタラクションの形式が、そうした文化をどう生み出していつているかを論じる。執筆者：黒嶋智美、平本毅、山内裕

5 「三夜講」で火祭りを準備する

野沢温泉道祖神祭りの伝承を支える仕組み

榎本美香編 A5判・978-4-89476-735-5

この巻では、北信濃野沢温泉の道祖神祭りの準備を担う「三夜講」と呼ばれる3世代100名程度の集団の協働インタラクションを分析する。言葉では表現しきれない身体技法や作法とともに、目上の者への礼儀を重んじ、公の前に自己犠牲を厭わず、誠意のある仕事をするという伝統的精神が伝承される様を著す。執筆者：阿部廣二、榎本美香、坂井田瑠衣、高梨克也、寺岡文博、伝康晴、坊農真弓、細馬宏通

ひつじ研究叢書(文学編)

16 農村青年の文学

昭和初期の農村アマチュア作家と宮沢賢治

牧千夏著 A5判・978-4-8234-1209-7

本書は、農民文学および産業組合という観点から、1920-30年代に農村の人々が地域や個人を主体とした独自の文化を生んだことを明らかにする。宮沢賢治を中心に地方のアマチュア作家や投書家の表現、および産業組合の関連から賀川豊彦や平塚らいてうを扱った。農村の人々のなかには、仕事や雑事に明け暮れる日々の中なかで、頭をひねって原稿用紙に向かった人がいた。本書は、彼らの表現が地域の暮らしから生まれたことを、浮かび上がらせようとする。

17 中島敦文学と意識のゆらぎ

ただ一つでない、存在と世界のかたち

石井要著 A5判・978-4-8234-1226-4

中島敦は、英国作家オルダス・ハックスレイのエッセイから、生物学者ユクスкульの環世界論をはじめ、「人間」の認識・思考・存在のあり方を根底から揺さぶる科学的知見を受け取っていた。理想的な国民の「人間性」が喧伝される戦時下の時代状況において、中島敦が捉えていた「人間」の姿とはどのようなものだったのか。本書では、中島敦が受容していた科学的知見を視座として、存在と世界のあり方を問い直す中島敦文学の新たな一面を浮き彫りにする。

巡り合い【全5巻】

巡り合い 1

佐々木瑞枝監修 「巡り合い」編集委員会執筆

B5判・978-4-8234-1216-5

「自宅で予習し、授業で(アクティブ・ラーニングを取り入れながら)学ぶ」というように自宅学習を「復習」から「予習」へと「反転」させた「反転授業」に適した教科書。本書は、会話文の場面をマンガで示し、二次元コードによって気軽に会話の音声聞くことができ、マンガという視覚表現と音声という聴覚表現に接することによって、学習者はいつでも、世界のどこでも、楽しく、自発的に予習することができる。1巻は初級レベルで、本文の内容は、大学入学から夏までの大学生の生活が描かれる。

巡り合い 2

佐々木瑞枝監修 『巡り合い』編集委員会執筆
B5判・978-4-8234-1217-2

「自宅で予習し、授業で(アクティブ・ラーニングを取り入れながら)学ぶ」というように自宅学習を「復習」から「予習」へと「反転」させた「反転授業」に適した教科書。本書は、会話文の場面をマンガで示し、二次元コードによって気軽に会話の音声聞くことができ、マンガという視覚表現と音声という聴覚表現に接することによって、学習者はいつでも、世界のどこでも、楽しく、自発的に予習することができる。2巻は初級の続編となり、本文の内容は、続編として、1年生の秋から春休みまでの大学生の生活が描かれる。

「ぬらりひょん」な日本語文法を目指して

「コミュニケーション」と「文法」を捉え直す
小林ミナ・舩橋瑞貴編 A5判・978-4-8234-1034-5

「文法」とは、唯一絶対の固定的なシステムではなく、個別具体の状況に寄り添いながら「言語」と「言語でないもの」が複雑に絡み合って存在する実態である。浮き世の有様を丹念に観察するとどのような「文法」が描き出せるのか。変幻自在な掴みどころのない妖怪とされる「ぬらりひょん」の名を付し、新しい「文法」のあり方を示す画期的な1冊。執筆者：太田亨、金田純平、衣川隆生、クレア マリィ、小林ミナ、定延利之、滝浦真人、舩橋瑞貴

話し言葉の多様性 (仮)

山崎誠・柏野和佳子編 A5判・978-4-8234-1086-4

話し言葉のコーパスが充実するにつれ、話者の属性、会話の場面や目的などにより、話し言葉が多様な姿を見せることが分かってきた。本書は、国立国語研究所の「日本語日常会話コーパス (CEJC)」のプロジェクトで開催したシンポジウムでの発表をもとに、音韻、語彙、文法、文体の諸側面から話し言葉の多様性を明らかにしようとするものである。執筆者：山崎誠、小磯花絵、石井久美子、入江さやか、河野礼実、高崎みどり、村井源、柏野和佳子、丸山直子、金青華、茂木俊伸、飯間浩明

5分間で言語学

一口サイズのことばへの誘い
リッカーソン・ヒルトン編
上田功、大津智彦、加藤正治、早瀬尚子監訳
A5判・978-4-89476-840-6

ことばは、空気のように我々の周りに当たり前に存在し、かつ不可思議で複雑である。本書では、一流の言語研究者が平易な語り口で、未知なることばの世界へと読者を誘う。60からなる各章は短い。言語の起源、動物の言語、世界の書き言葉、手話言語、言語の変化等、様々な角度からことばに迫る。時間の許すときに手に取り、読み始めてみよう。翻訳者：上田功、大津智彦、加藤正治、金子理紗、奥藤里香、田中瑠子、高森理絵、中尾朋子、早瀬尚子、渡邊拓人

日本語おもしろ事典

高山善行・中井精一・森山卓郎著
A5判・978-4-8234-1168-7

私たちが話したり、書いたり読んだりしている日本語の面白さを考える。現代語の地域の言語から、文法や日本語の歴史などのことばをめぐる意外なありようを考えていく。素朴な疑問から、ちょっと変わった問いかけやどきとする不思議ないいかたなどまで、100ほどの項目で、コラムもあり、ことばの面白さを感じることができる本になっている。

物語の言語学

甲田直美著 A5判・978-4-8234-1202-8

「物語」、「語り」という観点から、言語学と隣接領域をわかりやすく解説した画期的な書。物語、神話、マンガ、うわさ、都市伝説、ナラティブ・ケアなどの豊富な事例から具体的に、音声、文字、翻訳、文法、談話分析、さらには物語論、文体論、会話分析を幅広く、楽しく学ぶ。構造主義、シナリオ術、サブカルチャー、ケアと自己物語などを通して、文化、芸術、メディア、フィールドワークなど、人類と文化を考える裾野を広げる。

片岡邦好 談話分析著作選集 第1巻

メディア談話のクロスモーダル分析

片岡邦好著 A5判・978-4-8234-1178-6

1メディア談話、2道案内と空間描写、3ロッククライマーの身体とナラティブ分析を扱うシリーズ全3巻の第1巻。マルチモーダル分析の手法を駆使し、メディア談話研究の可能性を拓く論文集。本書は社会言語学・言語人類学的アプローチを用いながら、書記言語、音声言語、パラ音声、身体表象などを統合的に分析対象とすることを旨とし、認知のかつミクロな相互行為分析に着目する「マルチモーダル」の視座と、本書で「クロスモーダル」と呼ぶ個々の集団や文化的規範を重視するアプローチにより、メディア談話の新たな側面に光を当てる。

流暢性と非流暢性

定延利之・丸山岳彦・遠藤智子・舩橋瑞貴・林良子・モク
タリ明子編

A5判・978-4-8234-1208-0 定価 8,800 円＋税

母語話者といえども、我々の発話は実はたいいてい非流暢である。しかし、母語話者の非流暢性は学習者の非流暢性よりも気付かれにくい。なぜか？ 母語話者流の非流暢性を学習者に教えたらどうなるか？ 健常者の非流暢性は言語障害者の非流暢性とどう違っているのか？ AIが非流暢に話したらもっと人間らしく聞こえるのではないか？ 言語学・会話分析・日本語教育・言語障害・合成音声の研究者による最新の成果を取めた論文集。(日本学術振興会助成予定刊行物)

話題別コーパスが拓く日本語教育と日本語学

中俣尚己編 A5判・978-4-8234-1194-6

「ている」は食の話題よりも、ドラマ、アニメ、動画などの話題を話している時に多く出現する。間投助詞の「さ」は話題が難しくなると出現頻度が高まる。本書はこれまで扱われて

こなかった「話題」に注目し、「話題の言語学」を開拓しようという挑戦である。編者らが構築した言語資源の解説と、日本語教育・日本語学の観点からの論考を収録。執筆者：石川慎一郎、太田陽子、加藤恵梨、小口悠紀子、小西門、澤田浩子、清水由貴子、建石始、中俣尚己、橋本直幸、堀内仁、森篤嗣、山内博之

介護の医療の日本語がむずかしい

遠藤織枝著 四六判・978-4-8234-1213-4

2008年にEPA(経済連携協定)の外国人の看護・介護の専門家を養成する事業が始まり、介護福祉士候補者の日本語支援に関わるようになった。初めて、現場の日本語に接した時の衝撃は忘れない。申し送りや介護記録の用語は、日常の語と全く異なり難解であった。調べていくうちにそれらは明治以来路傍の語とわかった。漢字の環境も、働く人の実際も大きく変化した現在、難解な語のままにしておいていいのだろうか。

コーパスによる日本語史研究 近世編

岡部嘉幸・橋本行洋・小木曾智信編

A5判・978-4-8234-1134-2

日本語史研究は、資料の読解とそこから取り出した言語形式の集計と分析を重ねる方法によって、発展してきた。近世語はその資料性において多様な様相を示すが、本書は近世語研究にコーパスを用いた方法論を取り入れることで、新たな展開を呼び起こす。また、資料性という観点から『日本語歴史コーパス 江戸時代編』の設計思想を平易に解説する。執筆者：岡部嘉幸、村上謙、矢島正浩、村山実和子、橋本行洋、銭谷真人、高谷由貴、北崎勇帆、市村太郎、片山久留美、宮内佐夜香、上阪彩香、常盤智子、小木曾智信、松崎安子

「ナル的表現」をめぐる通言語的研究

認知言語学と哲学を視野に入れて

守屋三千代・池上嘉彦編集代表 角道正佳・栗林裕・岡智之・宮岸哲也編 A5判・978-4-8234-1200-4

日本語の動詞「ナル」は、主に事物の「出来(例:実がナル)・変化(例:水が水にナル)」を専用に表すが、ユーラシアの諸言語にもこうした「ナル相当動詞」があり、「主格/ゼロ格」を伴って「出来」を表し(例:実(が)ナル・水が水(が)ナル)、派生的に「変化」の意味を表す。本書はこうした「ナル・ナル相当動詞」を伴う「ナル的表現」をめぐる28言語の調査結果と、記述言語学・認知言語学、および哲学の観点に基づく論考47本を収める。

古代エジプト語のヒエログリフ入門(仮)

ロゼッタストーン読解に挑戦

永井正勝編 宮川創・吉野宏志・永井正勝著

A5判・978-4-8234-1155-7

「ヒエログリフ(聖刻文字)」の世界へと読者を案内する学術的な入門編。ヒエログリフの仕組みからロゼッタストーンに刻まれたヒエログリフに至るまで、初学者向けに解説しながら丁寧に読み解く。ヒエログリフの解説に繋がったロゼッタストーンには、何が書いてあるのか? エジプト語の言語的な位置付けから、ことばの構造、それぞれの文字の読み方・意味を解説。ウェブマガジンでの人気連載に、大幅な加筆をして書籍化。

ゼロからはじめる数理的言語研究入門(仮)

近藤泰弘・小木曾智信・小磯花絵著

A5判・978-4-8234-1001-7

これからの言語学は、数理的な発想やそれを実現する工学的分析プログラムやツールを研究に使うことが重要になると思われる。しかしながら、日本の大学のこれまでの言語研究者を育成するプログラムには、これらを教える仕組みが十分には整っていなかった。関心を持って、初学者にはなかなか手が出しにくい状況が続いている。これからの言語学を担う若手の言語研究者たちに数理的な言語研究の方法をデモンストラーションするワークショップを開催した。その内容の書籍化。

パソコンがあればできる! ことばの実験研究の方法 第2版

容認性調査、読文・産出実験からコーパスまで

中谷健太郎編 A5判・978-4-8234-1166-3

内容を大幅に刷新・増補した第2版刊行。パソコンでできる実験研究の初心者向け実践方法(容認性調査、自己ペース読文課題、語彙性判断課題、言語産出課題、コーパス、CHILDES 検索法)を紹介する。第2版では実験ホスティングサービス PCIBex Farm と Gorilla の基本的な使用法、アメリカ英語のコーパスとして定評ある COCA の検索法を新たに追加。執筆者：青木奈律乃、浅原正幸、有賀照郎、木戸康人、田中幹大、中谷健太郎、中野陽子、長谷部陽一郎

メタファー研究 3

特集：身体性

鍋島弘治朗・楠見孝・内海彰・河野哲也・菅村玄二編

A5判・978-4-8234-1132-8

言語学、心理学、工学など、様々な立場からレトリックを研究し、意見交換する場を提供することを目的とした日本語用論学会メタファー研究会の発表を中心としたシリーズ。第3巻では特集「身体性」を中心に多様な論文を収録。執筆者：河野哲也、菅原和孝、三村尚彦、加藤祥・浅原正幸、福市彩乃・村上祐介・菅村玄二、山本佑実・菅村玄二、岡村心平、児玉北斗、秋田喜美、武藤彩加、町田章、杉本巧

日本手話の歴史的研究

系統関係にある台湾手話、韓国手話の数詞、親族表現との比較から

相良啓子著

A5判・978-4-8234-1221-9 定価8,500円＋税

日本手話と、系統的に関係がある韓国手話、台湾手話の3つの言語の数詞および親族表現に焦点を当てて、表記法を用いて記述し、その記述に基づいて、音韻、形態、そして意味の観点から語彙の変化の特徴についてまとめている。地域により様々な表現があることが知られていたが、詳しい実態が知られていなかった3つの言語の文献資料における記述から現在にわたるデータをまとめた初めての資料である。言語学研究者、歴史研究者、教育関係者など、幅広く読んでほしい。〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

レトリックの世界 1 レトリック探究

瀬戸賢一著 A5判・978-4-8234-1232-5

本書は、「レトリックの世界」(全3巻)の第1巻『レトリック探究』である。伝統的にもっともレトリックらしいレトリック、メタファー(隠喩)をはじめとすることばのあやを取りあげる。レトリックの基礎を固めたい。シミリーを第1章にすえ、続く3つの章でメタファー、シネクドキ、メトニミーを順に論じる。最後に、メタファー・メトニミー・シネクドキを「認識の三角形」としてとらえ直し、それらが私たちの認識において果たす役割を新たな角度から探究する。(第2巻のタイトルは、『レトリック展望』、第3巻は『レトリック道通』を予定。)

談話標識へのアプローチ

研究分野・方法論・分析例

小野寺典子著 A5判・978-4-8234-1230-1

談話標識(ディスコースマーカー)は、今や、世界中の言語で、複数の学術分野・アプローチから研究されるようになった。研究分野の広範さゆえに起こる、研究上の様々な疑問に答えるよう、解説した書である。異なる学術的アプローチ・主要な3アプローチ(シフリン・フレイザー・プリントン)・共時的/通時的分析ほかを説明し、日英語の分析例も豊富に掲載。談話標識研究・談話分析のノウハウが学べる1冊である。

言語教育とコメニウス

松岡弘著 A5判・978-4-8234-1100-7

現代の外国語教育の内容と方法、その基本理念は、実に四世紀も前に一人のチェコ人牧師かつ学校教師によって確立した。その人ヤン・アモス・コメニウスは教授学者・思想家として名高いが、本務は国内外の学校におけるラテン語教育であった。筆者は彼の著した言語教科書、その指導書・理論書を原典に拠って読み解き、さらにコメニウスが近現代の中央ヨーロッパの言語教育界にもたらしたものを、日本語教師の目を通して明らかにする。

文学教育における読書行為の研究

丹藤博文著

A5判・978-4-8234-1214-1 定価7,200円＋税

本書は学校教育における文学教材の読みについて、読書行為の観点からその有効性を明らかにし、その成立のための方法を提案する。まず戦後文学教育を読書行為論の視点から批判的に検討し、また、文学の機能を教室で生かすために、言語論的転回以後の読書行為論の理論と方法を構築した。さらに文学教材をナラティブ・メソッドにより分析していくことで、テキストの行為を可視化することを試みる。文学教育の新たな理論と実践の書。〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

昭和前期における口演童話の変遷

教育、ラジオへの展開と戦争協力

中村美和子著 A5判・978-4-8234-1224-0

子どもを集めて物語を聞かせる口演童話は、20世紀前半の日本で人気のあった児童文化で、ラジオ登場前は児童出版以

上のマスメディアだったといわれる。口演童話は若い教師たちの話しかた研究に重宝され、口演童話家たちはラジオ初期のタレントとして活躍した。発展の過程でたくわえられた技術・人脈は、戦時体制が進むなか積極的に活用される。本書は語られた話材の分析をとおし、昭和前期の口演童話の展開をたどった歴史書である。

日本文化は英訳できるか、禅は西洋に根付くか(仮)

俳句・公案そして佐々木指月の生涯

堀正広著 A5判・978-4-8234-1231-8

本書は、異文化の翻訳と異文化の移動における受容の問題を扱っている。本書の構成は二部からなっている。第I部は、日本文化の英訳の諸問題を英語学的な視点から比較分析する。俳句・禅公案・『五輪書』、そして武士道が対象となる。第II部は、日本の禅は禅者の弟子丸泰仙・鈴木峻峰などによって広まったことを例示した後、アメリカで最初の禅センターを創設した佐々木指月の生涯を詳細に記録する。

未来の図書館

調査する住民の求める情報環境の整備

図書館笑顔プロジェクト著 A5判・978-4-8234-1223-3

「調査する住民」は、地域や社会に建設的・批判的に参画する。そして家庭・学校・職場での日常生活も、住民自身による課題設定や、その解決に役立つ調査スキルを要求する知的営為そのものである。本書は、そんな住民と共創する図書館のあるべき姿と未来を構想し、商用データベースへのリモートアクセス、情報リテラシー支援と地域資料のデジタル化を提案した。座談会のテーマは「図書館の笑顔」。読者各位もそこで自分だけの「笑顔」を発見してほしい。

ポストコロニアル時代の人文学と東アジア文化圏 3

人文学の明日を見つめて

世界はどこへ向かうのか？

千野拓政・草原真知子編 A5判・978-4-89476-980-9

文系・理系の垣根を越えて広がる人文学。今、その最先端で何が起きているのか。それは多様化する世界の姿を捉えられるのか。俊英が新たな地平を切り開く。あわせてアジアで人気を博しながら欧米では反響のなかったアニメ『君の名は。』を世界の視点から語る。執筆者：エルキ・フータモ、東浩紀、ドミニク・チェン、ミツヨ・ワダ・マルシアーノほか

BLと中国

耽美(Danmei)をめぐる社会情勢と魅力

周密著 四六判・978-4-8234-1229-5

中国のボーイズラブ(BL)は、1990年代に日本のBLから影響を受けて始まった。現在では、中国BL小説が原作のアダプテーションドラマ『陳情令』を筆頭に、中国BLは世界中で人気を博し中国のソフトパワーにもなっている。厳しいメディア規制の環境下でも発展してきた中国BLをめぐる、人気作品で語られる適応策やBL・メディア業界に関わる中国の社会情勢を分析する。中国のBL(耽美/Danmei)を論じた、日本語による初の研究書。

中国語現代文学案内

中国・台湾・香港ほか

栗山千香子・上原かおり編 A5判・978-4-89476-960-1

今、中国や台湾にはどんな作家がいて、どんな作品を書いているの？日本語で読みたいけれど、翻訳はあるの？—中国や台湾に関する本はたくさん出版されているが、こんな疑問に答えてくれる本が実はない。本書は、中国および台湾、香港、東南アジア等の代表的な中国語作家とその作品を紹介し、広い視点で中国語圏の現代文学を知ることができるよう編まれた案内書である。作家ごとの「作家ファイル」や「作品データ」等を用意し、便利で信頼できるミニ事典としても利用できるよう心がけた。

中国現代文学 25

中国現代文学翻訳会編 A5判・978-4-8234-1163-2

現代中国の文学作品を翻訳・紹介する『中国現代文学』の第25号。鄭小驢「最後の道士」(山間の寂れた廟で老いゆく道士とその弟子の物語)、陳春成「雪山大士」(旧東ドイツ出身の元サッカー選手が語る中国との奇縁)、徐則臣「モロッコ王子」(北京にくらす三人組の若者が見た流しの歌手と少女の行方)、蔣韻「朗霞の西街」(愛を貫いた母と影響を受けた娘、小さな町の裏切りと人情の物語)、本の紹介などを掲載。

中級からの人とながら日本語会話

ワンランク上のコミュニケーション力を目指そう

小池真理・ヒルマン小林恭子・宮崎聡子著

B5判・978-4-8234-1147-2

中級学習者からの「会話が続かない」「相手の話はわかるが上手く応答できない」などの悩みの声に応える、自然で円滑な会話を展開できる力を養成する会話教材。会話の中で必要な配慮とは何かを考え、話し手としてだけでなく、聞き手として相手の意図を汲み取り共感を示す方法を丁寧に学ぶことができる。語彙や表現を豊富にし自己表現できる練習、ロールプレイ、振り返り活動が各課に入り、学生にも社会人学習者にも役立つ教材。

日本語学習アドバイジング

自律性を育むための学習支援

木下直子・黒田史彦・トンプソン美恵子著

A5判・978-4-8234-1199-1

対話を通して自律的な日本語学習を促す「日本語学習アドバイジング」。長年の日本語教育経験があっても、アドバイジングの視座は自然に得られるわけではない。本書は、関連する諸理論とそれらを実践した12の対話例から、学習者の自律性を育む問かけや対応について理解が深められる。また、日本語学習アドバイザーとして継続的に成長するためのポイントも示されている。日本語教育、日本語学習支援に携わるすべての方に役立つ書。

自動音声認識で確認 英語発音練習帳 (仮)

Now I Can Do It!

中條純子著 B5判・978-4-8234-1228-8

英語学習者を対象とした発音の自律学習教材。スマートフォンやPCを用い自動音声認識を練習の中核として活用すること

とで、学習者自身がいつでも手軽に気兼ねなくそして瞬時に自分の発した発音のフィードバックを得ることができる。この教材で扱う音声学的要素は、日本人母語話者が練習することによって通用性が格段に上がるものに絞った。さらに、単調で機械的になりがちな発音練習を楽しみながら無理なく続けられるよう、リズムベースの活動で構成。★音源はネットで提供。

目指せ！ 書ける大学生 (仮)

今さら聞けないレポート・論文、メールの書き方

澤村美幸・朴秀娟・新井由美著

B5判・978-4-89476-941-0

レポート・論文などの学術的文章から、電子メールといった実用的文章の書き方まで、大学生活を送る中で、「書くこと」に困った状況に幅広く対応。「レポートって何を書けばいいの?」「こんな時、先生にどんなメールを送ればいいの?」と、多くの大学生がつまづいてしまうレポートやメールの初歩的問題を、親しみやすいマンガで分かりやすく紹介しながら解説する。大学生活に必要な「書く力」の基礎を身につけられる一冊。

外国人労働問題と介護問題 (仮)

受け入れ現場から考える課題と展望

NPO法人AHPネットワークス編

A5判・978-4-8234-1206-6

ベトナム人看護師や介護士受け入れに関わる現場経験の集積から、外国人と日本人の介護協働の方向性を考える。1993年からの「ベトナム人看護師養成支援事業」、ベトナム医療系大学とのKAIGO教育交流、ハノイの医療短大教諭の提言、ベトナム高齢者の課題、介護の日本語教育への探求、そして外国人労働問題の専門家と現場との座談会を取めた。執筆者：二文字屋修、剣持敬太、岡田智幸、原国芳、榊原司、中之庄まき、レティビックホップ、ファミデックムック、大田泰正、矢田高裕、神村初美、川村千鶴子、安里和晃、万城目正雄、マイアイン

欧文タイポグラフィへの招待 (仮)

河野三男著 A5判・978-4-89476-963-2

「英語文書の種類と基本形式」について、表記の慣例と共に書籍の構成に即して解説しているタイポグラフィ(活字の扱い方)入門書。英米の定評あるスタイル・マニュアルを範としつつ、文科系の英語文を誤解なく読みやすく「活字で書く」方法を紹介。エディトリアル・デザインなど雑誌の組版や広告類にも適用する、デザインの要素の濃いディスプレイ用組版と特殊な組版も新たな章を設けて解説。注や参考文献で専門的情報を追加提供。〈書籍原稿の執筆にも有益。〉

テキストのご案内

	日本語学	英語学	言語学一般・言語教育
より 専門的  より 入門的	ガイドブック日本語文法史 ガイドブック方言調査 ガイドブック方言研究 ガイドブック文章・談話 ガイドブック日本語史 ガイドブック日本語史調査法 改訂版 日本語要説 基礎日本語学 第2版  日本語の文法 新ここからはじまる日本語学 ここからはじまる日本語文法 ここからはじまる文章・談話 ベーシック現代の日本語学 学びのエクササイズ日本語文法	Linguistics Meaning and the English Verb Language Change ベーシック英語構文文法 ファンダメンタル音声学 ファンダメンタル英語学演習 ベーシック新しい英語学概論 ベーシック英語史 ファンダメンタル英語学 改訂版 ファンダメンタル英語史 改訂版 ファンダメンタル英文法	ここからはじまる国語教室  ベーシック応用言語学 第2版  改訂版 社会言語学 新版 社会言語学図集 言語人類学への招待 場面とコミュニケーションでわかる 日本語文法ハンドブック フィールドワークではじめる言語学 ファンダメンタル認知言語学 物語の言語学  問題を通して学ぶ 生成文法 ベーシック生成文法 ベーシック語彙意味論 ベーシックコーパス言語学 第2版 ベーシック日本語教育 使える日本語文法ガイドブック 学びのエクササイズことばの科学 An Introduction to Cognitive Grammar 学びのエクササイズ認知言語学 学びのエクササイズ子どもの発達とことば 学びのエクササイズレトリック 探検！ことばの世界

	スタディスキル	語学教材	文学
より 専門的  より 入門的	Writing for Academic Purposes 英語科学論文をどう書くか これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版 ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版 ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション グループワークで日本語表現力アップ 協働で学ぶクリティカル・リーディング アカデミックプレゼンテーション入門 失敗から学ぶ大学生のレポート作成法 はじめよう、ロジカル・ライティング 日本語を書くトレーニング 日本語を話すトレーニング	ひとりでも学べる日本語の発音 「大学生」になるための日本語 中級からの人とながなる日本語会話  そのまんまの日本語 日本で学ぶ留学生のための中級日本語教科書 出会い 巡り合い  さらに進んだスピーチ・プレゼンのための日本語発音練習帳 脱文法 100トピック実践英語トレーニング 日本語がいっぱい ネット時代の中国語	文学研究の扉をひらく  学びのエクササイズ文学理論 テキスト分析入門 文学理論入門 卒業論文マニュアル 日本近現代文学編 小説を読むための、そして小説を書くための小説集 昭和の文学を読む

ここに挙げているのは一部のテキストです。

 マークは新刊、 マークは近刊です。

● 日本語学

基礎日本語学 第2版

衣畑智秀編

A5判・362頁・978-4-8234-1195-3

定価1,800円＋税 発行2023.3

新たに「文字・表記」の章を加えリニューアル。日本語学を学びたい、または知りたかったときに、一番初めに手にとるべき日本語学入門の決定版。



新ここからはじまる日本語学

伊坂淳一著

A5判・344頁・5刷・978-4-89476-710-2

定価1,800円＋税 発行2016.12

入門テキストとして好評を博した1997年初版を大幅改訂。近年の言語資料を追加し、内容を全面的に改めた。現代の生きた言葉遣いを出発点に、日本語の仕組みを考える。■ Kindle版も発売中。



ベーシック現代の日本語学*

日野資成著

A5判・242頁・5刷・978-4-89476-438-5

定価1,700円＋税 発行2009.4

大学の学部生を対象とした日本語学への入門教科書。分野は音声学・音韻論・意味論・語用論・日本語文法・社会言語学に渡り、学生の興味を引く新しい内容を導入した。



改訂版 日本語要説

仁田義雄ほか著

A5判・348頁・8刷・978-4-89476-468-2

定価1,900円＋税 発行2009.6

好評を博した1993年の初版以降の研究動向を踏まえ、内容、装丁共に改訂。日本語のしくみや主要な事柄を、幅広いフィールドから知ることができる1冊。



ここからはじまる日本語文法

森山卓郎著

A5判・264頁・12刷・978-4-89476-174-2

定価1,800円＋税 発行2000.3

日常的なことばから考えていく日本語の文法のテキスト。必須な文法事項が一通り触れられている。豊富で、最新の文献リストは、卒論の課題を見つけるときにも便利。



日本語の文法*

高橋太郎ほか著

A5判・320頁・7刷・978-4-89476-244-2

定価2,400円＋税 発行2005.4

日本語の文法のテキスト。教材としてのみならず、参加している著者の文法理論が手短かにまとめられており、読み進めるうちに日本語文法の全体を学ぶことが出来る。



ガイドブック方言研究

小林隆・篠崎晃一編

A5判・248頁・8刷・978-4-89476-183-4

定価1,800円＋税 発行2003.2

最近の方言研究の成果をふまえた方言学のテキスト。方言のしくみを扱った章を中心に、「テーマの設定」「調査の方法」「分析の方法」「参考文献」といった具体的な研究の手順を示した方言研究の入門書。



ガイドブック日本語文法史

高山善行・青木博史編

A5判・216頁・5刷・978-4-89476-489-7

定価1,900円＋税 発行2010.4

「モダリティ」「係り結び」など日本語文法史の基本テーマをわかりやすく解説。日本語学だけでなく言語学、日本語教育、国語教育、古典文学など、幅広いニーズに応える。



ガイドブック日本語史

大木一夫著

A5判・264頁・4刷・978-4-89476-615-0

定価2,200円＋税 発行2013.5

通史としてではなく言語の歴史を明らかにするさまざまな方法からみた日本語史の概説書。日本語を例にして、言語の歴史を明らかにする方法を多面的・総合的に概説する。■ Kindle版も発売中。



ガイドブック日本語史調査法

大木一夫編

A5判・328頁・978-4-89476-854-3

定価2,600円＋税 発行2019.5

古い文献のことばから日本語の歴史を解明するための調査法マニュアル。文献の内容の読み取り方や、証拠の集め方などを具体的に説明する。日本語史の演習や卒業論文に最適。



ここからはじまる文章・談話

高崎みどり・立川和美編

A5判・276頁・3刷・978-4-89476-345-6

定価2,000円＋税 発行2008.4

ケータイメールやブログ、狂言や『電車男』など日常のあらゆる場面で使用されることばをとりあげ分析する方法を学ぶ。もっとも新しい文書・談話についてのテキストブック。



● 英語学

ファンダメンタル英語学 改訂版*

中島平三著

A5判・160頁・8刷・978-4-89476-575-7
定価1,400円＋税 発行2011.8

英語学入門テキストとして好評の1995年初版を大幅改訂。新たな分析法や説明法を追加。英語学の中核をなす統語論・形態論・音韻論・意味論の基礎を簡潔・丁寧に提示する。



ファンダメンタル英語学演習*

中島平三著

A5判・128頁・4刷・978-4-89476-519-1
定価1,600円＋税 発行2011.2

英語の構文交替などを題材に、英語やことばを研究する際の問題発見と解決の方法を学ぶ。多くの人が英語を学んだ時に抱いたであろう疑問に取り組む、英語学の基礎テキスト。



ファンダメンタル英語史 改訂版*

児馬修著

A5判・168頁・3刷・978-4-89476-877-2
定価1,600円＋税 発行2018.1

英語史入門書として好評の1996年初版を改訂。本文の加筆修正に加え、練習問題も改めた。歴史的言語変化のメカニズムを通して様々な言語学的事象への理解を深める1冊。



ファンダメンタル英文法*

瀬田幸人著

A5判・206頁・12刷・978-4-938669-86-7
定価1,600円＋税 発行1997.6

この例文はこういう意味だというような実例を収集したものではなく、様々な実例の背後にあると思われる規則性について考える。覚える英文法ではなく、考える英文法を目指す。



ファンダメンタル音声学*

今井邦彦著

A5判・240頁・5刷・978-4-89476-279-4
定価2,400円＋税 発行2007.5

ロンドン大学音声学科から英語発音技能第一級証明書、国際音声学協会から音声学技能第一級証明書を授与された著者が、音声学の理論に基づく「正しい」英語の発音を伝授。CD-ROM付。



ベーシック英語史

家入葉子著

A5判・138頁・6刷・978-4-89476-349-4
定価1,600円＋税 発行2007.3

英文法の不規則さは歴史によるものが多い。少し歴史を知っていれば、英語に対する恐怖感もずいぶん変わるのではないだろうか。英語を学ぶ人びと全てのための本。

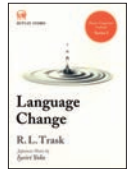


Language Change

R.L.Trask 著 家入葉子訳

菊判・144頁・978-4-89476-999-1
定価1,700円＋税 発行2019.12

英語の史的变化を、語彙・発音・綴り字・文法・意味などの側面からわかりやすく解説したテキスト。原著に日本の学習者向けの注釈と練習問題を追加したリプリント版。



ベーシック新しい英語学概論*

平賀正子著

A5判・228頁・6刷・978-4-89476-554-2
定価1,700円＋税 発行2016.1

異文化コミュニケーションという視点を軸に、母語英語・国際英語の両面から、今や世界の共通語として認識される英語について概説する新しいタイプの英語学概論教科書。■Kindle版も発売中。



ベーシック英語構文文法

大谷直輝著

A5判・248頁・978-4-89476-940-3
定価1,800円＋税 発行2019.10

近年注目を浴びる構文文法について、体系的に統括した日本では初めての概説書。構文文法の理論全体を体系的に捉えようとしている点に特徴があり幅広いテーマを扱う。



● 言語学

学びのエクササイズことばの科学

加藤重広著

A5判・148頁・8刷・978-4-89476-336-4
定価1,200円＋税 発行2007.3

ことばに関心のある人なら知っておきたいことや考え方、言語学というしかつめらしい学問に入門する前に気づいておくべき現実やその問題点を扱う。



学びのエクササイズレトリック

森雄一著

A5判・116頁・3刷・978-4-89476-600-6
定価1,400円＋税 発行2012.9

言葉の彩であり、説得の技術であり、物事の認識のためにも欠かせないものであるレトリック。理論から具体例まで、さまざまなレトリックを概説的に解説。

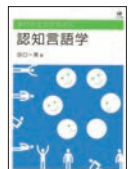


学びのエクササイズ認知言語学

谷口一美著

A5判・144頁・7刷・978-4-89476-282-4
定価1,200円＋税 発行2006.4

認知言語学についての重要で興味深いトピックを集め、その視点から、15章構成で認知言語学のエッセンスや考え方を学ぶ入門書。



ファンダメンタル認知言語学

野村益寛著

A5判・208頁・2刷・978-4-89476-608-2
定価1,600円＋税 発行2014.5

言語とは、世界を〈意味〉として捉える認知の営みを可能にする記号の体系である。認知言語学の基本を、英語および日本語の語彙・文法の現象を通して紹介する入門テキスト。



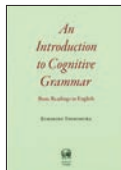
An Introduction to Cognitive Grammar*

Basic Readings in English

吉村公宏著

菊判・100頁・978-4-8234-1145-8
定価1,600円＋税 発行2022.11

英語で書かれた認知言語学の入門書。日本人向けに平易な英語で書かれており、主要な用語には日本語訳を付す。英語を読み英語で考えながら認知言語学の基礎を学べる書。



問題を通して学ぶ生成文法

阿部潤著

A5判・180頁・4刷・978-4-89476-390-6
定価1,600円＋税 発行2008.3

生成文法は人間の言語に内在する文法を解き明かすツールである。研究を進め、矛盾に出会い、新たな解決法を探す中で、生成文法の基本的概念や考え方を学ぶことができる一冊。■ Kindle版も発売中。



ベーシック生成文法

岸本秀樹著

A5判・160頁・6刷・978-4-89476-426-2
定価1,600円＋税 発行2009.3

英語だけでなく日本語の言語現象を通して、生成文法の考え方を学ぶことができ、人文系以外の学生にも、文法について考えるきっかけを与えることを意図する、学部生向けの教科書。本書を基にした英語版 *Analyzing Japanese Syntax: A Generative Perspective* も刊行。

■ Kindle版も発売中。



ベーシックコーパス言語学 第2版

石川慎一郎著

A5判・288頁・2刷・978-4-8234-1093-2
定価1,700円＋税 発行2021.3

英語と日本語コーパスの両者に目配りしつつ、コーパス構築の理念やコーパスを生かした言語研究の方法について、コーパス言語学を初学者にも分かりやすく平易に解き明かす。



ベーシック応用言語学 第2版

L2の習得・処理・学習・教授・評価

石川慎一郎著

A5判・376頁・978-4-8234-1197-7
定価2,100円＋税 発行2023.3

個別的に論じられることの多かった、第2言語(L2)の習得・処理・学習・教授・評価の問題を統合的に位置づけ、平易な解説で幅広い知識の必要な応用言語学の全体像を示す。



学びのエクササイズ子どもの発達とことば

伊藤崇著

A5判・160頁・978-4-89476-855-0
定価1,600円＋税 発行2018.5

家庭内での会話や学校での授業など、0歳から18歳までの子どもが出会う多様な社会的場面で起こるコミュニケーションから、言語発達過程にひとつの筋道を読み解く。



改訂版 社会言語学

基本からディスコース分析まで

岩田祐子・重光由加・村田泰美著

A5判・368頁・2刷・978-4-8234-1143-4
定価2,200円＋税 発行2022.3

社会言語学の成り立ちから最新の研究知見までカバーした『概説 社会言語学』の改訂版。社会言語学の基本的なテーマを扱う一方で、相互行為的社会言語学、談話分析、会話分析、言語人類学、批判的談話分析などのテーマの解説も充実。■ Kindle版も発売中。



新版 社会言語学図集

日本語・英語・中国語・韓国語解説

真田信治・朝日祥之・簡月真・李舜炯編

A5判・296頁・978-4-89476-942-7
定価2,500円＋税 発行2021.11

社会言語学の各領域におけるトピックごとに、裏付けとなったデータの図表と、日本語と英語・中国語(繁体字)・韓国語の解説を加えた。外国語学習としても活用できるテキスト。



フィールドワークではじめる言語学

なじみのない言語から考える

古閑恭子著

A5判・192頁・978-4-8234-1139-7
定価2,200円＋税 発行2022.3

言語学入門書にこそ、なじみのない言語を！ 筆者の研究対象のガーナの言語を取り上げ、日本語とは違ったことばの世界を知り、言語のしくみを学んでいく、一味違った入門書。

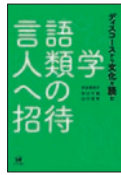


言語人類学への招待

ディスコースから文化を読む

井出里咲子・砂川千穂・山口征孝著
A5判・264頁・2刷・978-4-89476-965-6
定価2,400円＋税 発行2019.7

アメリカ合衆国を発祥の地とし発展してきた言語人類学の概説書。ことばの使用実践から多様な言語観・世界観を明らかにし、変わりゆく文化社会を捉えるための視座を提供する。■ Kindle 版も発売中。



これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版

ライティングの挑戦 15 週間

佐渡島紗織・吉野亜矢子著
A5判・274頁・3刷・978-4-8234-1089-5
定価2,000円＋税 発行2021.2

「思考を整理して、分かりやすく、科学的に」伝えるための技能や文献研究、テーマの設定から論文の評価まで段取りをマスターできる。■ Kindle 版も発売中。



● 英語学習

脱文法 100トピック 実践英語トレーニング

中山誠一ほか著
四六判・320頁・4刷・978-4-89476-858-1
定価1,600円＋税 発行2017.5

文法の知識に頼らない「瞬間トランスレーション法」という独自の手法をとりいれ、「食」「旅行」「テクノロジー」など100種類の話題を収録した、英語実践練習のテキスト。



Writing for Academic Purposes

英作文を卒業して英語論文を書く

田地野彰ほか編
A5判・216頁・4刷・978-4-89476-490-3
定価2,000円＋税 発行2010.4

大学・大学院生対象の英語論文の書き方ガイド。論文の構造や概念の解説、資料収集法、読書法など幅広い視点から、論文を作成するために必要なスタディスキルの向上を図る。



● スタディスキル

失敗から学ぶ大学生のレポート作成法*

近藤裕子・由井恭子・春日美穂著
B5判・132頁・6刷・978-4-89476-970-0
定価1,600円＋税 発行2019.4

大学初年次を対象としたレポート作成法のテキスト。学生が失敗しがちな例を挙げながら、レポートにふさわしい表記、引用ルールから作成プロセスまで基礎から段階的に学ぶ。■ Kindle 版も発売中。



英語科学論文をどう書くか

新しいスタンダード

保田幸子著
B5判・232頁・4刷・978-4-8234-1080-2
定価2,400円＋税 発行2021.11

英語科学論文執筆のためのガイドブック。科学論文に関する様々な伝統的通説を反証し、新しい科学論文執筆法を解説する。読み手を引き付ける論文のコツを網羅的に学べる一冊。



日本語を書くトレーニング*

野田尚史・森口稔著
A5判・128頁・2版4刷・
978-4-89476-177-3
定価1,000円＋税 発行2014.12

変化した学生生活や時代に合わせてアップデートした定番テキストの改訂版。メールで先生に問い合わせをする、レストランのメニューをわかりやすく作り直すなど、日常生活に密着した言語活動をサポートするテキスト。■ Kindle 版も発売中。



ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション*

プレゼンテーションとライティング

大島弥生ほか著
B5判・168頁・4刷・978-4-89476-471-2
定価1,500円＋税 発行2012.2

大学入学後の初年次教育や入試・編入の小論文指導などに適した活動型教科書。本を批判的に分析するグループワーク等、各課のタスクをピア活動を通じて行う。練習問題も豊富。■ Kindle 版も発売中。



日本語を話すトレーニング*

野田尚史・森口稔著
A5判・128頁・6刷・978-4-89476-210-7
定価1,100円＋税 発行2004.3

日本語を話すときに、なるべく効率よく、なるべく相手を不快にさせないで話すにはどうしたらよいかを普通の人があまり上手に話していない音声聞くことにより考える。



ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版*

プロセス重視のレポート作成

大島弥生ほか著

B5判・150頁・7刷・978-4-89476-709-6

定価1,600円＋税 発行2014.7

相手に伝わるレポートの書き方・発表のし方を身につけるための実践的表現活動をタスク化したテキスト。大学一年生が日本語表現やスタディスキルの基礎を学ぶのに最適。第2版の主な変更点は本書ホームページ参照。https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-709-6.htm
■ Kindle版も発売中。



グループワークで日本語表現力アップ*

野田春美ほか著

A5判・176頁・5刷・978-4-89476-802-4

定価1,400円＋税 発行2016.3

グループワークを活用した大学初年次向けの文章表現のテキスト。文章表現の基本的な知識や姿勢からレポート執筆まで、豊富な課題で楽しく学び、効果的に習得できる。



はじめよう、ロジカル・ライティング*

名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科著 執筆協力・戸田山和久

B5判・224頁・6刷・978-4-89476-700-3

定価1,600円＋税 発行2014.5

『論文の教室』の戸田山和久名古屋大学教授と意見交換しながら作った、中学生から社会人までを対象とする日本語表現の教科書。『論理的』とはどういうことか始まり、他者の意見やデータを分析し、自己の主張や提案につなげるまでを身につける。



● 文学

学びのエクササイズ文学理論*

西田谷洋著

A5判・168頁・3刷・978-4-89476-703-4

定価1,400円＋税 発行2014.4

文学を読む、論じるための主要な理論を15の章に分けて解説。国内外の研究成果をコンパクトにまとめ、興味のある章から文学理論とはどのようなものかを知ることができる一冊。



テキスト分析入門*

小説を分析的に読むための実践ガイド

松本和也編

A5判・264頁・5刷・978-4-89476-836-9

定価2,000円＋税 発行2016.10

小説はストーリーや主題を読むだけではなく、小説を構成することばが、どのように小説の面白さを作り出しているのか、その仕掛けや技術进行分析する方法を具体的に解説。



文学理論入門

論理と国語と文学と

疋田雅昭著

A5判・272頁・2刷・978-4-8234-1104-5

定価2,200円＋税 発行2021.11

高校の現代文が文学的文章と論理的文章に「分離」されることとなった。これらを有機的に組み合わせるため、新たな国語教育の可能性を模索する文学理論入門。



文学研究の扉をひらく

基礎と発展

石川巧・飯田祐子・小平麻衣子・金子明雄・日比嘉高編

A5判・360頁・978-4-8234-1136-6

定価2,200円＋税 発行2023.2

日本近現代文学研究の方法と技術を習得するためのテキスト。各章で扱う文学作品もテキスト内に掲載し、研究アプローチや批評理論について、各分野の第一人者が解説する。



卒業論文マニュアル

日本近現代文学編

斎藤理生・松本和也・水川敬章・山田夏樹編

四六判・242頁・978-4-8234-1146-5

定価1,700円＋税 発行2022.10

日本近現代文学で卒論を書くとしたら何から手をつけたらよいだろうか。必要な準備、分析の手立て、執筆の進め方は？ テーマ決めから提出前の推敲まで読者をサポートする。



● 国語科教育

ここからはじまる国語教室

A5判・316頁・978-4-8234-1196-0

定価2,400円＋税 発行2023.4

生徒自身が主体的に生きていくための言語活動を教室で学ぶことを目的とした新しい国語科教育の教科書。現場の教師の問いにこたえ、新しい言語教育を提言。学習指導要領準拠。



● 日本語教育

ベーシック日本語教育

佐々木泰子編

A5判・336頁・10刷・978-4-89476-285-5

定価1,900円＋税 発行2007.4

コミュニケーション重視となった新しい日本語教育能力検定試験に対応した日本語教授法のテキスト。言語の仕組みなど、従来から重要視されている必須の事柄についても丁寧に扱っている。



使える日本語文法ガイドブック*

やさしい日本語で教室と文法をつなぐ

中西久実子・坂口昌子・大谷つかさ・
寺田友子著

A5判・176頁・2刷・978-4-89476-997-7
定価 1,600 円＋税 発行 2020.1

「使える日本語」を教えるために必要な情報を平易な日本語で書いたガイドブック。初心者日本語教員でも、授業の前に読んで使えるよう配慮した文法の苦手な人向けの入門書。■ Kindle 版も発売中。



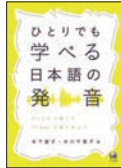
ひとりでも学べる日本語の発音

OJAD で調べて Praat で確かめよう

木下直子・中川千恵子著

B5判・104頁・978-4-89476-851-2
定価 1,600 円＋税 発行 2019.2

日本語初級後半以降の学習者向けの、発音の自律学習教材。持続可能な発音学習のための様々な方法を紹介。喜怒哀楽などの感情の表現法も盛り込み、楽しみながら学習ができる。■ Kindle 版も発売中。



そのまんまの日本語

自然な会話で学ぶ

遠藤織枝編 阿部ひで子ほか著

B5判・140頁・978-4-89476-921-2
定価 2,000 円＋税 発行 2020.3

実際の談話をもとに、わざとらしくない本物の会話で作った中級学習者向けの日本語会話教科書。日本人のコミュニケーションの実際と、今の日本語の本当の姿をつかみとる。音声 CD 付。■ Kindle 版も発売中。



日本で学ぶ留学生のための中級日本語教科書

出会い 【本冊 テーマ学習・タスク活動編】*
別冊 文型・表現練習編】

東京外国語大学留学生日本語教育センター著

本冊：B5判・224頁・4刷・

978-4-89476-758-4

定価 3,000 円＋税 発行 2015.5

別冊：B5判・144頁・5刷・

978-4-89476-801-7

定価 1,800 円＋税 発行 2016.3

テーマとタスクを融合させた新しい中級日本語総合教科書。本冊は留学生として一度は考えて欲しい、日本社会・文化に関する6つのテーマと、テーマ理解を深めるための4つのタスクから成る。別冊は、本冊でのテーマ学習とタスク活動に必要な文型や話し言葉の表現・ストラテジーを取り上げ、本冊だけでは明示的に学べない言語知識が補完できるようにになっている。

■ Kindle 版も発売中。



「大学生」になるための日本語1・2

堤良一・長谷川哲子著

1：B5判・192頁・5刷・

978-4-89476-435-4

定価 1,900 円＋税 発行 2009.10

2：B5判・252頁・3刷・

978-4-89476-462-0

定価 1,900 円＋税 発行 2010.11

日本の大学進学希望の日本語学習者対象にしたテキスト。生教材をもちいた読解文、より自然な会話を目指した聴解 CD、豊富なタスクの練習により四技能を総合的に養える1冊。■ Kindle 版も発売中。



書名の最後に★印のあるものには、授業のためのヒントや解答をご用意しております。ここに掲載したもの以外のテキストについては、下記の URL をご覧ください。ご採用をご検討くださいます場合には、採用見本をお送りします。別紙の採用見本請求書をご利用下さい。

<https://www.hituzi.co.jp/saiyou/index.html>

電子教科書について

教科書の電子化をすすめています。電子教科書と取り扱い書店は順次増やしていく予定です。
電子化のリクエストをおよせください。

■ 電子書店

〈個人の方向け〉

- Kindle (Amazon.co.jp / Amazon.com)
- Google Play ブックス (Google)
- Knowledge Worker (丸善雄松堂) など。

〈教育機関向け〉

教室・講座単位での電子教科書配信サービス。

- Maruzen eText Service (丸善雄松堂)
- UniText Service (NTT EDX)

■ 電子教科書一覧 * 2023 年 9 月現在

タイトル	著者名
新ここからはじまる日本語学	伊坂淳一著
ガイドブック日本語史	大木一夫著
問題を通して学ぶ生成文法	阿部潤著
ベーシック生成文法	岸本秀樹著
Analyzing Japanese Syntax	岸本秀樹著
ベーシック新しい英語学概論	平賀正子著
改訂版 社会言語学	岩田祐子・重光由加・村田泰美著
言語人類学への招待	井出里咲子・砂川千穂・山口征孝著
日本語を書くトレーニング	野田尚史・森口稔著
ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版	大島弥生ほか著
ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション	大島弥生ほか著
失敗から学ぶ大学生のレポート作成法	近藤裕子・由井恭子・春日美穂著
これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版	佐渡島紗織・吉野亜矢子著
そのまんまの日本語	遠藤織枝編 阿部ひで子ほか著
出会い 【本冊 テーマ学習・タスク活動編】	東京外国語大学留学生日本語教育センター著
出会い 【別冊 文型・表現練習編】	東京外国語大学留学生日本語教育センター著
「大学生」になるための日本語 1	堤良一・長谷川哲子著
「大学生」になるための日本語 2	堤良一・長谷川哲子著
ひとりでも学べる日本語の発音	木下直子・中川千恵子著
使える日本語文法ガイドブック	中西久実子・坂口昌子・大谷つかさ・寺田友子著

教科書以外の電子本や電子書店の詳細は、
右の2次元コードからご覧ください。



<https://www.hituzi.co.jp/ebook/>

雑誌「日本文学」発売中

日本文学研究および国語教育の今日的な課題を追求する日本文学協会発行の機関誌。日本文学と国語教育にかかわる研究論文・実践報告・エッセイ等を掲載しています。月刊。

2023年5月号 戦乱-変革期の中世文学／7月号 戯作の領分／8月号 学籍のある会員による論文／9月号 文学における〈共同性〉の力学

※弊社では直接販売しておりませんので、ご注文は、お近くの書店または日本文学協会 (<http://nihonbungaku.server-shared.com/>) までお願いいたします。



製作協力した電子学術雑誌

ひつじ書房は、編集を行っていませんが、今後、学術情報の発信に際し、電子的な発信が求められることがあると考えて製作を協力しました。動画や音声、詳細な画像などを扱った学術成果の発表の場を作りたいと考えています。

日本語音声コミュニケーション II (日本語音声コミュニケーション学会)

目次

日本語アクセント「おそ下がり」の生起環境—CSJ 独話データを利用した調査研究(葉雪瑠・朱春羅)／冒頭音反復についての一考察—応答表現を中心に(森山卓郎・姚瑤)／小喃を取り入れた体験型のオンライン日本語授業(小熊利江・高木三知子)／研究ノート フィラーの頻度を特徴量としたランダムフォレストによる日本語学習者の習熟度の推定(石山友之)

日本語習熟論研究 I (日本語習熟論学会)

日本語習熟論学会のオンライン雑誌。日本語習熟論学会は、日本語研究・国語教育研究・日本語教育研究などをつなぐ新たな分野として日本語の習熟について幅広く考え、研究・交流することを目的として活動しています。

目次

意見文の表現と言語への習熟—シルバースーツ意見文の調査から(森山卓郎)／中学生の『平和作文』にみられる使用語彙と学習成績との関連性について(鈴木一史)／学習者の語・表現の習熟に焦点を当てた日本語教育(鈴木智美)／将来の夢・進路の語り方—話題から始まる文型考察(三好優花)／アナウンサーの朗読音声における極短ポーズ—放送業界で使われる「切り切りず」(佐藤栄治)／「児童・生徒作文コーパス」を用いた長文の分析—一分かりにくさの要因と学年進行に伴う変化(砂川有里子)／日本語に習熟した読み手の読み誤り(佐藤蘭礼)／「話すように打つ」ことばは簡潔なことばか?—携帯メール・LINE・対面会話・ネット通話における1発話の長さを比較して(落合哉人)／辞修機能分析を活用した作文指導(佐尾ちとせ・宮城信・田中弥生)／大学生の待遇表現の習熟を目指した3年間の取り組み(清島絵利子・横田康成)／「どっちでもいい」が与える印象の違いについての分析(加藤恵梨・清水由貴子)／児童作文の中対照研究—内容と展開の類型に着目して(孫家桐) ■各電子書店(図書館向け含む)でも販売中。

新刊の紹介動画 YouTube で配信中

ひつじ書房 YouTube チャンネルで著者の先生やスタッフによる本の紹介動画、オンライン座談会などを公開中です。ぜひご覧ください。



上の動画は右の2次元コードからご覧いただけます。



<https://www.youtube.com/@straysheep-ht7os/>

ひつじ書房ウェブマガジン 未草 (ひつじぐさ) のご案内

「未草」はひつじ書房のウェブマガジンです。言語学や文学、その他ことばに関わる幅広いテーマについて研究者による連載のほか、ひつじ書房の刊行物やイベントの紹介をします。



<https://www.hituzi.co.jp/hituzigusa/>

◆新連載

ことばのフィールドワーク 薩摩弁 黒木邦彦

(2023年10月から週1回連載更新予定)

◆連載中

ボケとつっこみの言語学 ヴォーゲ・ヨーラン／英語とともに日本語を考える 武内道子／日本語表記のアーキテクチャ 今野真二・Chris Lowy／場所によるものの呼び方の違い、日本列島あちこち、方言アレコレ 岸江信介／「現代の国語」と「言語文化」の問題点 清田朗裕／〈社会システム〉として言語教育を観察していく 新井克之／少なすぎる公共図書館の資料費 山重壮一／外国人労働者の受け入れに日本語教育は何かができるか 田尻英三／言語展示学～ことばの宇宙を届けたい 菊澤律子／BOOK REVIEW: STRAY SHEEP(書評)

◆連載を書籍化しました！

未草の連載「認知文法の思考法:AI時代の理論言語学の一つのあり方」(町田章)に大幅な加筆修正をして書籍化。

AI時代に言語学の存在の意味はあるのか？

認知文法の思考法 町田章著

近年のAIの発達により、言語学も変革を迫られている。これまで不可能だったことがAIによって着実に実現されていく。言語学の課題はAIによってすべて解決されてしまうのだろうか。本書は、長年ラネカーの認知文法理論の研究を行ってきた著者が、言語理論を繙きながらディープラーニング以降の理論言語学および語学教育の在り方について提言を行う。AI研究と言語研究の共進化を目指して。

◎章立て

- 第1章 ターミネーターの出現
- 第2章 ディープラーニングのインパクト
- 第3章 大量に聞いて覚えると話せるようになる？
- 第4章 “常識”で壁を越える
- 第5章 勝敗は誰が決めるのか？
- 第6章 心の中のマトリョーシカ
- 第7章 経験がことばに命を吹き込む
- 第8章 意味は話者の中にある
- 第9章 意味を育む豊かな土壌
- 第10章 ベッドに合わせて足は切らない
- 第11章 話すために考える
- 第12章 外国語教育に別解を …ほか、コラムも満載。



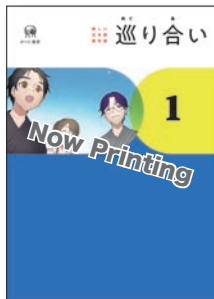
A5判・176頁
定価 2,200円＋税
ISBN 978-4-8234-1207-3
発行 2023.9

登場人物がいきいき、マンガでたのしく予習。
新しい日本語教科書、シリーズ刊行開始！

2023年冬
刊行予定

巡り合い 1

佐々木瑞枝監修 『巡り合い』編集委員会執筆
B5判・予価 2800円＋税



「自宅で予習し、授業で（アクティブ・ラーニングを取り入れながら）学ぶ」というように自宅学習を「復習」から「予習」へと「反転」させた「反転授業」に適した教科書。本書は、会話文の場面をマンガで示し、二次元コードによって気軽に会話の音

声を聞くことができ、マンガという視覚表現と音声という聴覚表現に接することによって、学習者はいつでも、世界のどこでも、楽しく、自発的に予習することができる。1巻は初級レベルで、本文の内容は、大学入学から夏までの大学生の生活が描かれる。

配慮しながら話して、聞いて。
自信を持って日本語で会話できるようになる。

2023年11月
刊行予定

中級からの 人とつながる日本語会話

ワンランク上のコミュニケーション力を目指そう

小池真理・小林ヒルマン恭子・宮崎聡子著
B5判・予価 2400円＋税



中級学習者からの「会話が続かない」「相手の話はわかるが上手く応答できない」などの悩みの声に応える、自然で円滑な会話を展開できる力を養成する会話教材。話し手としてだけではなく、聞き手として相手の意図を汲み取り共感を示す方法を丁寧に学ぶことができる。学生にも社会人学習者にも役立つ教材。

近刊テキストのご案内 ぜひ教科書採用をご検討ください！

ことばの研究は、
語→文→文章・談話から、「物語」へ！

2023年冬
刊行予定

物語の言語学

甲田直美著
A5判

「物語」、「語り」という観点から、言語学と隣接領域をわかりやすく解説した画期的な書。物語、神話、マンガ、うわさ、都市伝説、ナラティブ・ケアなどの豊富な事例から具体的に、音声、文字、翻訳、文法、談話分析、さらには物語論、文体論、会話分析を幅広く、楽しく学ぶ。構造主義、シナリオ術、サブカルチャー、ケアと自己物語などを通して、文化、芸術、メディア、フィールドワークなど、人類と文化を考える裾野を広げる。

◎目次（ゴシックは言及する主な分野）

序章 物語と人間

第Ⅰ部 物語から描く言語学の世界

第1章 『星の王子さま』に見る世界の言語	比較・対照言語学
第2章 物語と談話の法則	文法論
第3章 音と耳から考える物語	音声学
第4章 物語の翻訳	意味論
第5章 物語と時間	談話分析
第6章 構造主義と神話研究	音韻論
第7章 物語作品の享受と分析	文体論

第Ⅱ部 物語の技巧と文化

第8章 物語の技巧	物語論
第9章 物語の共通性	物語の類型論
第10章 ドラマ・アニメの構造とシナリオ術	シナリオ術
第11章 マンガ、遊び、サブカルチャー	文化論
第12章 マンガと視点現象	マンガ学

第Ⅲ部 物語をとおして「わたし」を知る

第13章 雑談と「もの」語り	会話分析
第14章 ケアの物語	語用論
第15章 コミュニケーション・ツールとしての物語	コミュニケーション論

付章 物語のフィールドワーク



ひつじ書房教科書採用見本のページ
<https://www.hituzi.co.jp/saiyou/>

